

訴訟法會議筆記 第二卷

寫本
訴訟法會議筆記
第五卷
第七十四號
第十一卷
四冊

| | | |
|--------|---------|---------|
| 第 八 | 第 大架 | 第 五號 |
|--------|---------|---------|

司法部
第八四號
寄贈圖書文庫





後
卷

第二十一

訴訟法會議筆記

七年十二月五日

司法省

第百五十五條

此條ハ種々ノ一ヲ述ヘタルモノニテ頗ル混雜

セリ一々之ヲ分解セサルヘカラス

關席裁判ハ故障ヲ述テ裁判取直シノ出末ルモ

ノナリ

尤夫々ノ區別アリ

關席裁判ハ暫時裁判ヲ言渡シタルモノト同

シ

關席裁判ニモセヨ其言渡書ハ一方ヘ送達

ヘカラス

司法省

其送達セサル間ハ故障ヲ述フル期限ヲ生セス

此条ニ區別スル如ク若シ被告人代書師ヲ立テ

タルトキ始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリ

タル言渡書ハ其代書師ヘ送達ス若シ代書師ヲ

立テタルトキハ被告人ヘ直チニ送達ス

始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリタル言

渡書ヲ送達シタルヨリ八日ヲ過クレハ故障ヲ

述ルヲ得ス

其八日ヲ過キタル間ハ一時執行ヲ停止ス其八

日ヲ過キタル後ニ執行ヲ始ム

B500
B 3
1 b

若シ代書師ヲ立ツルトモ始未書ヲ出スコトヲ怠
タリタル為メニ閣^大席裁判トナリタル時ハ八日
ノ期限内ニ故障ヲ述ヘサル可カラス其期限ヲ
過シハ其訴訟ヲ取上ケス
其八日ノ間ハ被告人ヨリ故障ヲ述フルヲ得ル
ト雖モ其間ハ原告人コトヲ執行スルコトヲ得ス
第百五十七條見合
其八日ノ期限ヲ生スルハ裁判言渡シノ日ヨリ
生スルニ非ス原告人ヨリ被告人ヘ送達シタル
日ヨリ算出スルナリ

司法省

言渡書ヲ送達スルハ始終後レ勝テサリ何トナ
レハ繁忙ノ裁判所ハ本文并寫シ等ヲ作ルニ早
速ニハ出来難シ多シハ十日位ヲ費ヤスナリ之
ヲ送ルハ吏^レ使ナリ
八日ト言フト雖モ其^レ実ハ滿八日ナル故即チ十
日ナルナリ
代書師原告人ト相談シテ之ヲ送達セヨト云ハ
サレ間ハ使吏ハ之ヲ送達スルコトヲ得ス
其言渡書ハ書記官ヨリ代書師之ヲ受取リテ使
吏ニ渡スナリ

タトヘハ原告人ニテ湯治ニ行カント欲スルト
キ^欠關席裁判ヲ言渡スアリ其時直々ニ之ヲ被告
人ニ送達スル時ハ其故障ニ付テ争ハ他行留守
中ニ始ニル^欠誤ナリ其場合ニ於テハ原告人ニテ
湯治ヨリ歸リタル後之ヲ送達セヨト言フ^欠ア
リ
又代言人ニテ此節甚ク多忙ナリ仍テハ君ノ為
メニ大ニ尽カスル^欠ヲ得ス遺憾ナリ仍テ一
月ヲモ過タル後ニ之ヲ送達スト云フ^欠モア
リ

司法省

代書師ヲ立テツ^欠モ欠席裁判トナリタル分ハ違
フナリ之ハ六ヶ月中ニ執行ヲ為サミル可カラ
ス何トナレハ被告人ニテ一切知ラス^欠居ルモ
亦知レカラス其六ヶ月期限ノ算出ハ其裁判言
渡ノ日ヨリ生ス
代書師ヲ立テタル分ハ何時ニテ之ヲ猶豫スル
^欠ヲ得ヘキヤ
三十ヶ年間ハ^替シカラス
代書師ヲ立テ見込書ヲ出サミル^欠ニ付再ヒ
説カン

原告人ニテ言渡書送達ヲ永々延引スルニ於テハ被告入甚タ迷惑ヲ蒙ムルナリ其時ハ被告入ヨリ故障ヲ述フルナリ

一方ハ二十年一方ハ六ヶ月ト相違スルハ人民ノ為メニ便益アルヲナラン之ハ何レノ誤ナリヤ

第百五十六條ヲ説ケハ分明ナリ

仮リニ裁判ヲ行フコトヲ一寸置キテ第百五十六條ヲ説カセトス

第百五十六條

司法省

始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリタル時又代書師ヲ立テスシテ欠席裁判トナリタル時此二ツノ間ニ三ツノ大切ナルコトアリ即チ此条之レナリ

之ハ被告入ヲ保護スルヨリ起ルナリ被告入ニテ代書師ヲ立テサルハ即チ呼出状ヲ知ラサルト看做スナリ

始末書ヲ出ササルハ呼出状ヲ知ルニ相違ナシレドテ何レニ便益アリヤト云フ時ハ呼出状ヲ知ラサル方ニ多クアルハニ

第一

呼出状送達ノ方法

代書師ヲ立テス欠席裁判トナリタル時ハ此条ニ依テ如ク裁判所ヨリ別段ニ使吏ヲ命ミテ送達ヲ為ス

其使吏ハ裁判所ニ居リテ裁判所中ノ事ヲ熟知セルモノナリ其中ヨリ選ミテ之ニ命ス一ヶ年裁判所へ出テ勤ムルコトニ定メラルナリ又ハ其頭ヨリ即チ頭ヲ選ムコトモアリ特ニ之ニ命スレハ被告人ハ再ヒ間違ナリ

司法省

之ヲ達スル為メナリ

第二

第百五十八條ニ依リ之ヲ讀ム

始末書ヲ出サスニテ欠席裁判トナリタル時ハ八日内ニ非サレハ故障ヲ述フルコトヲ許サス

代書師ヲ任セスニテ欠席裁判トナリタル時ハ執行ニ至ルニテハ故障ヲ述フルコトヲ許スナリ此ニツノ相違スル道理ハ代書師ヲ立テサル方ニ付裁判ヲ言渡シタルニテノミニ非ラス

執行中財産ヲ買却中ト雖モ故障ヲ述フルコト

シカラス

第三ニ

一般ノ法云ヨレハ三十年ハ期滿得免ノ期限ナリ
代書師ヲ任シテ欠席トナリタル言渡書ハ原
告人ニテ三十年之ヲ握リテ送達セストモ苦シ
カラズ
代書師ヲ立テツ欠席スルモノヲ三十年ノ期限
ト定テ其三十年自ニ故障ヲ述フルノ道理アリ
ト云レ証書并証人モ或ハ無ク實際ノ証ヲ立テ
得サルヲモアルヘキナリ

司法省

其時ニ至リテ受取証書等ヲ失ヒ被告入ノ悉
惑トナルヲ多シ
仍テ法律上ニテ六ヶ月間ト定ムルナリ六ヶ月間
ナレハ衆証モ存在シテ被告入ニテ弁解スル
ヲヲ得ルナリ
但三十年ハ被告入ニテ之ヲ拒クノ権アリトス
ルノミ
以上三ツノ違ヒアルナリ
再ヒ云フ

第一ハ別段ノ使吏ヲ命シテ言渡書ヲ送達スル

第二ハ八日ノ期限ノ後ト虽モ故障ヲ述フルコトヲ得ルコト

第三ハ代書師ヲ立テサレモノハ裁判執行ニテハ故障ヲ述フルコトヲ得ルコト

一方ハ三十年ニテモ送達セストモ若シカラスシ一方ハ六ヶ月間ニ送達セサレハ言渡ノ効ナシシ代書師ヲ立テサレ方ヲ注意シテ保護スル者ハ其呼出ノ達セサレモノナリト看做スユヘナリ
順席ニヨリテ次條ヲ説カサルヲ得ス

司法省

第百五十九條

此条ノ大意ヲ云ハシ

代書師ヲ立テスミテ又席裁判トナリタル時ハ其執行中ハ故障ヲ述フルコトヲ許スト虽モ其述フルコトヲ得サルハ何レノ時ヨリ始メルト云フコトヲ説キタルモナリ

裁判執行ノ終リタル期限ハ

被告人ノ動産ヲ抵償トシテ取押ヘタルノミコトハ執行ノ済ミタルモノニ非ス之ヲ賣掛ビタル時ハ済ミタリトナス但モ其代價ヲ受取ラストモ

同シ告シカラス

何トナレハ自己ノ財産ヲ人ニ取ラレテ賣ラルニ
テ知ラサルノ理ナシ然ルニ賣拵ヒタリトモ黙
スルハ自己モ承諾スルト看做スナリ

禁錮云々ハ佛國ニテ之ヲ用ヒタルトキ立テタ
ル法ナレハナリ今ハ之ヲ廢止セリ

之ハ原告人ニテ被告メヲ禁錮セシムルニテ黙
スルノ理ナシ仍テ之ヲ承諾セシト看做スナリ
或ハ被告人他ノ負債ノ為メニ禁錮セラレタル
時一人ノ原告人獄ノ書記局へ行キ具被告人

司法省

呼ビ書記役ニ云フテ曰即今ノ禁錮ノ終リタル
時直ニ此人ヲ獄ヨリ出スヘカラスト云フ具
時被告人ニテ原告人ノ面前ニテ故障ヲ述ヘ
サルヘカラス

不動産ハ之ヲ賣却スルヲ待ツテ及ハス使吏ニ
テ之ヲ差押タリト云ヒタル時故障ヲ述ヘサ
ルヘカラス

或ハ自カラ裁判入費ヲ拵ヒタル時

又何事ニ関セス被告人ニテ裁判ノ執行ラ了

知シタルノ分明ナル所為ヲナシタルトキ

此末段ハ大體ヲ説キタルモノナリ
故ニ例ヲ挙サレハ了解スル事難カラシ
名村負ケ被告人ナリ以上ノ四件ハ自己ノ為
メニナシタルナリ然ルニ名村ヨリ玉乃ハ貸金
アリ原告人ノ小田切ヨリ玉乃ニ云ツテ曰君名
村ヨリ借金アリ之ヲ名村ヘ拵フベカラスト之
ヲ取押ヘ其旨ヲ名村ヘ通知ス其時名村ニ於テ
故障ヲ述ハサル可カラス
以上ニ挙ゲタル期限ヲ過クレハ故障ヲ述フル
ヲラ得ス

司法省

若シ故障ヲ述タル時ハ其執行ヲ止ムヘキナ
リ
箕詔ノ前數條ニ定記内ハヨロシカラス故ニ
朱ヲ以テ抹ス
ホアツク曰箕詔ノ悪キニ非ラスコトノヨロシ
カラサルナリ
ホアツクナード曰上ニ述ヘタル執行ノ未タ終
ラサル以前トナス方ヨロシ
此末段ヨリ遙カニ第百五十五條ノ後項ニ應ズ
欠席裁判トナリタル者ヲ仮リニ執行ヲ命スル

了アリ之ハ至急ノ事件ニ非ラサレハ為サス
第百五十五條前項ノ但書ヲ見ル可シ

此但書ヲ文面ニ闡セス説カン之ヲ聞テ而シテ
後ニ文面ヲ讀ムハシ

裁判執行ヲ中止スルハ二ノ場合アリ一ツニハ
八日以内ニハ故障ヲ述ヘサルト虽モ執行スル
ヲ得ズ之一ツナリ

若シ相当ノ期限内ニ故障ヲ述フル時ハ執行ス
ルヲ得ヌマニツナリ

此時ニ當ツテ至急ノ場合ニハ執行ヲナスヲ得
司法省

ナルノ期限ト虽モ之ヲ執行スルヲ得ヌ

タトヒ至急ノ場合ト云フトモ第百三十五條ニ
記シタル場合ニ非サレハ之ヲ為スヲ得ヌ
裁判官ニテ至急ノ場合ト思フ時ハ執行ヲ言渡
ス併シ至急ノ一ニテモ八日ノ内ニ故障ヲ述フル
時ハ之ヲ執行スルヲ得ヌ

至急ノ場合ヨリ又更ニ一層至急ノ場合アリ之
ヲ大至急ト云フハシ之ヲ猶豫スルトキ損害ノ
起ルヲナリ其時ノ故障ヲ述ヘタリトモ之ヲ執
行スルナリ

前項ノ但書ハ故障ヲ述フレハ之ヲ中止スト由ニ
後項ノ方ハタトヒ故障ヲ述ヘタリトモ執行ス
尤モ故障ヲ述フレハ後ニ取直シノ出来ケル
ヲハナケレモ先ツ執行セシムルナリ
至急ノ場合ノ例ヲ挙ケン
第一ノ至急ハ

仮令ハ家ヲ借タルニ風雨ノ為メニ家ノ破損アリ
家主之ヲ修復セス仍テ之ヲ訴タリ其裁判
官ニテ八日内ニ執行セシムルナリ

前項ノ分ニハ故障云々ト書テ無之故ニ故障

司法省

ヲ述フレハ其執行ヲ中止ス

又タトハ前文ノ場合ニ於テ屋根ヲ総テ吹
飛ハシラ身ヲ容ル所ナシ其時ハ故障ヲ述フ
ルト由ニ之ヲ執行セシム之レ大至急ナリ

又仮令ハ家ヲ建テ掛テアレ時大ユニ命シテ
由木ヲ運ハシム其遷延スル為メニ家ヲ建ツル
ヲ得ス其時ハ至急ナリトス

然ルニ其由木ナケレハ既ニ建テタル家ニテモ
壞ルニナリ之レ大至急ナリ

又大ユニテ家ヲ建ルニ家ハ既ニ建タルニ屋根葺

来ラス仍テ既ニ建タル家モ朽腐スルコトアリ之レ
大至急ナリ

又大工ニ命シテ家ヲ一軒建ラシメタリ然ルニ
其家ハ更ニ建添ヘキモノアリ大工之ヲ建テ添
ハス之至急ナリ係シ屋根ヲ葺カサル如キモノ
ニアラス尋常ノ至急ナリ

尋常至急ノ時ニハ八日ノ期限内ト虽モ執行
セシム其執行中ニ故障ヲ述フル者アレハ之
ヲ中止ス係其害ノ他ニ及フト思量スルト
キハ大至急トナシテ仮リニ執行セシム

司法省

裁判官ノ見込ニテ被告人ノ勝テタルト思フ
時ハ保証人ヲ立ラシメテ仮リニ執行ヲ命スル
コトアリ

仍第百三十五條ニ照合シテ見ルトキハ分明
ナリ

第百三十五條ノ記スル所ニアラサレハ至急トハ
為サレルナリ

第百三十五條ニ七箇ノ目ヲ立ラシマリ其七目
外ニ三箇アリ合セテ十箇トナスナリ

此至急ト大至急トノ分界ハ併人ニ於テモ甚夕

誤リ本ノマシセスシ書直サシハヨロシカラス

第百五十六條以下ハ故障ヲ述フル法式アリ
第百五十五條ヨリ第百五十九條ニテハ肝要ナ
ルヲナリ注意スヘシ

前ニ説タル三十年期限ハ何ノ法ニ基クヤ貸
借ノ一般期限ヨリ生ス

法律ニ於テ其期限ノ年月ヲ記セサルモノハ統
テ三十年ト心得マシ

如何ナル小區ニテモ代書師ナキ地ハナシト代言
人毎キ所ハアリ此ノ如キモノハ代書師ニテ代

司法省

言人ヲ兼ルヲモアルナリ

仮リニ裁判言渡ノ方ハ成リ丈々早ク故障ヲ述
クトモ執行ハ中止セストモ速ク述フヘシ時ニ
ヨリテハ執行中ト云ヒ裁判ヲ取直スルアリ
此仮リ執行ノ取直スル何ニ依ルトナレハ即チ
裁判取直シニ依リテ替ルナリ故ニ成リ丈々早
ク述ヘワルヘカラス

訴訟法會議筆記

十二月十日

司法省

第百六十條 被告人ノ代書師出席セス出
席スト虫厄論弁ヲ為サスシテ被告人欠席ト
ナリ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其代書師ヨリ
相手方ノ代書師ニ裁判所ヘノ願書ヲ送達シ
テ其故障ヲ述フ可シ

故障ヲ述フカルニハ必ラス書付ヲ出サミル
ヲ得ス之レヲ訴ト云フソノコレケトハニ種アリ

箕詠願書即チ願書ニテヨロシ裁判所ヘ
願フトキハ訴トナル

司法省

第一ニハ裁判長官へ直チニ出スモノナリ第二ニ
ニハ別ナルモノアリ

其直チニ出スコレケトレハ至急裁判ヲ乞フト
キ出席ノ期限ヲ延ストキ式日等ニ呼出状ヲ
送達スルトキノ三ツナリ

今説カントスル所口コレケトレハ第二ノ別ナ
ルモノナリ

同シコレケトレトエフト虫厄之レハ裁判長
官へ直チニ出スモノニアラス

此コレケトレハ一方ノ代書師ヨリ一方ノ代書師

ハ送ルモノナリ之レヲ扱フモノハ吏使ナリ
其使吏ハ裁判所ノ訟庭ノヲ取扱フ使吏
ナリ之レヲ代書師ヨリ代書師へ送達スル所
口ノコレケトト云フ

此時ハ必ラス代書師ノアルトキノヲニテ即チ
仕未書^{コシクルシヨフ}ヲ出サシルトキニ限ルナリ代書人ヲ任
出席セサルヲ

算取出席セヌ云々ノヲナレト原文ニハ之レ
ナシ

其コレケトレヲ原告人ノ代書師ヨリ被告人ノ

司法省

代書師へ送リ闕席裁判トナリタルヲ知ラ
セタル時被告人ノ代書師ヨリ故障ヲ述ル
書付ヲ原告人ノ代書師へ送達スルナリ
其コレケトレノ宛所口ハ裁判所宛ナリ

此コレケトレヲ送リタルトキ双方ノ熟議トナルト
キハ夫レニテ済ム萬一方ノモノニテ不承諾
ナルトキハ裁判所へ出テ帳簿へ書キ入レ
本日ニ至リ裁判所ニテ争ヲ為スナリ
故障ヲ述フルニ於テハ裁判所ニテ之レヲ駁
カサルヲ得ス故ニ裁判所へ豫シメ願ハス先

ツ一方ノモノハ見スルナリ之レ古來ノ習慣ナリ

故障ヲ述フルハ裁判言渡書ヲ勝テ訴訟即チ原告人ノ代書師ヨリ被告人代書師ハ送達シタル日ヨリ八日ノ期限ノ内ニナス可シ答弁書ヲ送ルハ十五日ナリイツレモ之レラ口ケートレト云フナリ之レモ直チニ裁判長官ニ差出スニアラス代書師ヨリ代書師へ送ルナリ

第百六十一條 其願書ニハ裁判言渡ニ付キ故

司法省

障ヲ述フル憑據ヲ記ス可シ但シ其裁判言渡ノ前既ニ被告人ノ答弁書ヲ故障ヲ述フル憑據トシテ用ヒントスルヲ記スルノミニテ足レリトス

此法式ニ背キタル故障申述ノ書ハ裁判ノ執行ヲ止ムルヲ得ス且原告人ノ代書師ハ被告人ノ代書師ニ答^レ書^トヲ送ルノミニテ其他訴訟ノ手續ナク其故障申述ノ書ヲ^御還^スルヲ得可シ

此條ハ故障ヲ述ケルトキノ文章ハケ様ノ譯

ヲ以テ故障ヲ述ルト云フヲ書クヲ説キ
タルモノナリ

故障ヲ述ルコトレトレニハ其故ヲ書記ヒサル
ヲ得ス

併シ既ニ答弁書ニテ其事故ヲ委シク書テ
送リタル上ニハコレトレニ其故ヲ委シク記
スルニ及ハストス

此法律ニ記載シタル如クニ書カス又前ニ答
弁書ヲモ出サス總テ法律ニ違ヒタルコト
トハ其効ナシトス

司法省

其時ハ裁判所ニテ此コレトレハ式ニ違フモ
ノナルユヘ取上ルヲ得スト言渡スナリ
其時ニハ夫切リニテ済ム

コトアソナトレ曰之レニテ差支モ面倒モナキ
式ニ違フ此法律ハ嚴酷ナリトス

式ニ違フタルコレトレヲ出シタルトキハ何事
ヲモ取調フルコトクハ通ノ言渡シ書キラ
出スノミ

箕譯誤アリ且云々以下ニ刪改ス

故障ヲ述ル書付ハ裁判官ニアラサレハ之レ

ヲ却還スルコトヲ得サルナリ

仮令ハ被告人ノ代書師ヨリ原告人ノ代書師ハ
故障ヲ述フルレケートセラ送リタルニ其書ノ
式ニ違ヒタル時ハ之レハ其効ナシト云ヒテ
之レヲ還シ夫ヨリ原告人ノ代書師ハ裁判
所ハ出テ被告人ノ代書師ヨリ故障ヲ述ヘタ
ルニ其レケートレハ式ニ合ハサルヲ以テ還シ
タリ依テ被告人ノ代書師ハ其故障ヲ述フル
レケートレハ用ヲ為サタルノ言渡ヲ願フト云フ
其時裁判所ニテ原告被告代書師ハ別段取

司法省

調ノ手續ナクミテソノ効ナキノ言渡ヲナス
ナリ

其レケートレヲ被告人ニ還ストキ何月何日ニ
裁判所へ共ニ出ント言ヒ送ルナリ

其裁判所ニ出テタル時ハ原告ノ代書師ハ被
告人ノレケートレヲ讀上セナリ

其時ハ裁判官ハ原被双方ノレケートレヲ讀ム
ヲ聽カサルヘカラス萬一被告人ノ故障ヲ述

ルレケートレハ式ニ違ハサルトキ原告人ノレ
ケートレ違ヒタルト為シテ其レケートレヲ効ナ

シト言渡ス

被告人ノコレケートレノ式ニ違ヒタルトキノ裁判
費用ハ被告人之レヲ拂ハス被告人ノ代書師
之レヲ拂フナリ

之レニテハ代書師ノアルトキノナリ

第百六十二條 被告人代書師ヲ任セスシテ欠
席トナリ裁判言渡ヲ受タル時ハ裁判所ノ手
続ヲ經カル書ヲ以テ故障ヲ述ヘ又ハ負債ヲ拂
フ可キ要決ノ書財産ノ抵償又ハ禁錮ノ調書又
ハ其他總テ裁判執行ヲ命スル書ニ故障ノ旨趣

司法省

ヲ附記シテ其故障ヲ述フルヲ得可シ但シ
故障ヲ述フル者ハ其後八日內ニ必ス代書師ヲ
任シ其代書師ヲシテ故障ヲ述フル願書ヲ更ニ
出サシム可ク其^卷八日ノ期限ヲ過シタル後ハ
故障ヲ述フルヲ許サス原告人別ニ裁判執
行ノ命ヲ得スシテ其執行ヲ緘キ為スヘシ
被告人代書師ヲ任セスシテ關席トナリ裁判
言渡ヲ受ケタル時原告人ノ代書師死去シ又ハ
其職務ヲ行フヲ止メタルニ於テハ原告人ヨリ
更ニ代書師ヲ任シタルヲ被告人ニ報知ス可

シ但シ被告人ハ其送達ヲ得タル時ヨリ八日ノ
期限内ニ代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ノ
述フル願書ヲ更ニ出サシム可シ

何レノ場合ニ於テモ被告人ノ代書師ヨリ裁判
言渡ニ付キ一度故障ヲ述フルノ願書ヲ送達
シタル後更ニ出シタル故障申述ノ憑據ヲ
記スル書ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可ラス
此條ハ代書師ヲ立テツシテ欠席トナリタル
トキノフナリ

司法省

酷ナラスシテ簡易ニ故障ノ出来ル様ニナシ
タルモノナリ

被告人代書師ヲ立テスシテ欠席裁判トナリ
原告人ヨリ裁判言渡書ヲ送達サレタル時ハ
即チ代書師ヲ立テ何某ヲ代書師ニ立テタリ
ト原告人ヘ言送ルナリ

其文格ハコレキトレニハアラス箕譯ニ裁判所
ノ手續ヲ經ケル書トハ相對ノ書付ケニテ裁
判所宛ノ書付ケニアラサルヲ云フナリ

例ハハ呼出狀ハ後ニハ裁判所ヘハ出ツルナ

レ其呼出状ハ裁判所宛ノ書付ニ非ラサル
モノ故即チ裁判所ヲ經ケル書付ケト云フ

裁判所^{キスタラ、シユン}ヲ經ケル書付

此條原文ヨロシカラス

裁判所ヲ經ケル書付ト云フハ負債ヲ拂フ可
キ余令ノ書財産差押ノ書等皆チ裁判所ヲ
經ケルモノナリ故ニ別段ノ書付ケト云ヒテ
是レリ

負債ヲ拂フヘキノ余令ノ書トハ裁判執行ノ
書付^キニテ使吏ノ書クモノナリ裁判所ヲ經

司法省

タルモノニアラサルナリ

之レヲ送達シタル時故障申述ヘント欲スル
モノハ其旨ヲ其書ニ附記シテ是レリトス
尤ヨリ裁判所ニテ言渡シラナシタル上ハソ
レニテ裁判所ノ役ハ済ムナリ其言渡シノ通
リニスルヤセサルヤハ關セス

「コニヒントニシ」 纂作 要決ト譯

此ノ如ク行ハト云余令ノ書

負債ヲ拂フヘキ云々ノ書ハ使吏ニテ裁判言
渡書キノ寫シラ作り此ノ如ク言渡ケレタル

こヨリケ様々々ニ執行スヘシト使吏ヨリ命令
スルモノナリ

裁判官ニテハ裁判言渡ヲ為スノニ其後使吏ニ
テ原告人ノ頼ミヲ受裁判言渡書ヲ寫シ此
言渡書ニヨリ誰ヘ何々ヲ渡セ或ハ何程ノ
金ヲ拂ヘト云フヲ我ヨリ命スルト書キ
テ被告人ヘ送ルナリ
執行ノ手續ヲ説カントス
欠席ナリ出席ナリ其裁判ヲ言渡セハ裁判官
ハソレニテ済ムナリ

司法省

日本ニテハ裁判官ニテ其済マテモ世話ヲス
ル心ナル可ケレトソレハ暫ラク捨テ聞ク
可シ

サテ裁判言渡書ハ勝訴訟ノ者ヘ渡ス之レハ勝
訴訟ノ証據ナリ

出席ナレハ双方ノ手数ノ済ミタル上ニテ一方
ノ勝者ヘ言渡書ヲ渡スナリ

其後ノ手續キハリ

裁判ヲ執行スル一ハ直チニスル一能ハス

使吏ニテ其言渡書ノ寫ヲ作り負訴訟ノ者

ニ送ル

其時ニ此余令書ヲ送ラント欲スレハ直クニ送ルヲモアリ

裁判言渡書ヲ送り直クニ執行セシメントスルトキハ使吏ニテ裁判言渡書ノ下ニ此ノ如ク執行セヨト書キ送ル

其時ハ二十四時間ニ執行セラルヲ得ス若シ急ニセサル時ハ先ツ言渡書ノミヲ送ル而シテ後ニ余令書ヲ送ル

余令書ヲ送リタル後二十四時ノ間ニ執行セ

司法省

ナル時ハ使吏ニテ負訴訟へ行キ財産ヲ取押ユルナリ

其時ニ自カラ行キ物品ヲ持テ歸ル等ノナリハ決シテ為サス

其余令書ヲ送リタルニ其執行ヲ為サミルニ付キ何々ヲ取押ユルトノ書付ヲ物品ノ番人又ハ本人ニ渡ス

其調書ノ下タヘ何月何日ニ之レヲ糶賣スルト書ク

其糶賣ハ公ケノ糶賣ニテ其宅ニテ賣リ又ハ

之レヲ為スヘキ所ニ出シテ賣ルナリ
其時ハ夫婦ノ卧床糸ニ衣服渡世ノ書類其他
職業道具等三百「フ」ラニク「レ」犬ケノモノヲ引除ク
ナリ

其前ヨリ身ニ着シタル衣服ハ何程ノ義ナル
モノナリトモ又ハ指輪金鏢等モ總テ取ル「フ」
ヲ得ス

及令何程多ク着スルトモ之レヲ取ル「フ」ヲ得
ス

万一義服ナラハ脱カセヨトノ法律アレハ使吏ニ

司法省

糸服ヲ着セテ義服ヲ脱カスル等ノ弊ア
ルヲ以テ其法ナシ

不動産アレハ之レヲ押ユルトモ苦シカラズ
係シ之レヲ賣ルハ三十日間ヲ経リレハ能ハ
ス

禁錮ハ其人ヲ入獄セシムル「フ」ナリ

執行ノ書付々ハ三ツトナル

第一不動産ヲ取押ユル

第二不動産ヲ取押ユル

第三人ヲ取押ユル

其書付ケハ何ノ故ヲ以テ動産ヲ取押ヘ何ノ
故ヲ以テ不動産ヲ取押ヘ何ノ故ヲ以テ其者
ヲ取押ユルト書付ケヲ送ル

若シ控訴ノ出来ルヲナレハ其期限内ハ其執
行ヲ中止スルナリ

其執行中ニ物ヲ以テ拒ク時ハ選卒其他公兵
ヲ連レテ行クヲ得ス

控訴又ハ故障ヲ為ス時ハ其間ハ執行ヲ中止
スルナリ係レ乱暴ヲ以テ其命令ノ如ク為サ
サル時ハ選卒等ノ助ケヲ得テ行フナリ

司法省

「^シグロスト云フ書付ケアリ其書付ケニ仏國人民
ノ命令ニ依テ此ノ如ク言渡ス万一此命令ノ如ク
執行セサル時ハ選卒兵隊ヲ以テ此書付ケノ
如ク行ハシムト書イテアルナリ

此書付ナケレハ何ノ用ヲナサス
之レハ裁判所ヨリ心ヲス渡スナリ

裁判言渡ノ本書ハ裁判所ニ残ルナリ其寫シ
ヲ勝訴訟ノ者ニテ之レヲモロウナリ其寫面
ヲ大字ニ書キタルモノナル故「^シグロスト云フ
ナリ

使吏ハ其書付ケテ懷中シテ行クナリ係レ見
セハセサルナリ

此「グロス」ハ裁判所ヨリ去ヘハ寫シナレモ勝訴
訟ノ者ヨリ去ヘハ本書ナリ使吏ヨリ負訴訟
ノ者へ送達スルモノハ又其寫ナリ

此「グロス」ヲ書記官ニテ渡ス故其手数料ヲ書
記官へ出スナリ

此「グロス」中ニ邏卒兵隊ノ手ヲ借ル「フ」ヲ書イテ
アル故万一拒ンモノアルトキハ其カラ借ル即
チ此「グロス」アルヲ以テナリ

司法省

此次會會ニ故障ヲ述フル手續キテ説カントス

訴訟法會議筆記

七年十二月十五日

司法省

訴訟法會議筆記 七年十二月十五日

第百五十六條ニモトル

第百五十六條ニ代書人ヲ立テスレテ欠席裁判トナリタルトキハソノ裁判言渡書ヲ別段選ミタル使吏ニ持タセテ遣ルト書テアルナリ

然ルニ此ノ如クニ取扱フヲ得サル場合アリ

被告ノ住所ソノ裁判所ノ管轄内ニアラサルコトアリ物件ノ付テハ多クアルコト

司法省

ナリ

タトヘハ原告東京人ニテ被告大阪人ナルトキハ東京裁判所ヨリ大坂裁判所へ托シ遣リ大坂裁判所ヨリ別段使吏ヲ命ジテ送達ス被告ノ教人アルトキハ猶尚為スヘカラス之レ等ハ惣テソノ管轄ノ裁判所へ托シラシメ使吏ヲ命スルナリ

遺物分配ノ付テハソノ死シタル人ノ地方ニテナスコトヘソノ分配ヲ受クルモノハ各地ニ散在スルモノ多シ惣テ前ノ手ツキヲ

以テスルナリ

右ハ過日説クハキ所口ナレモ忘レタルユヘ今日説添ヘタリ

第百六十二條 被告人代書師ヲ任ビスミテ欠席トナリ裁判言渡ヲ受ケタルハ裁判所ノ手續ヲ經サル書ヲ以テ故障ヲ述ヘ又ハ負債ヲ拂フ可キ要決ノ書賤産ノ抵償又ハ禁錮ノ調書又ハ其他總テ裁判執行ヲ命スル書ニ故障ノ旨趣ヲ附記シテ其故障ヲ述フルヲ得可シ但シ故障ヲ述フル者ハ其後八日內ニ必ス代書師ヲ任シ

司法省

其代書師ヲシテ故障ヲ述フル願書ヲ更ニ出サシムヘク若シ其八日ノ期限ヲ過シタル後ハ故障ヲ述フルヲ許サス原告人別ニ裁判執行ノ命ヲ得スレテ其執行ヲ緘キ為スヘシ
被告人代書師ヲ任セスレテ欠席トナリ裁判言渡ヲ受ケタルハ原告人ノ代書師死去シ又其職務ヲ行フヲ止メタルニ於テハ原告人ヨリ更ニ代書師ヲ任シタルヲ被告人ニ報知スヘシ但シ被告人ハ其送達ヲ得タル時ヨリ八日ノ期限内ニ代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ノ

述フル願書ヲ更ニ出サシムヘシ

何レノ場合ニ於テモ被告人ノ代書師ヨリ裁判
言渡ニ付キ一度故障ヲ述フルノ願書ヲ送達シ
タル後更ニ出シタル故障申述ヲ憑據ヲ記スル
書ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス

訴訟人出席シテ裁判トナリタル片ハ裁判言
渡ト使吏ノ命令書トヲ送達シソノ負債ヲ
拂ハサル片ハ財産取押ヲナシ而シテ公ケノ
糶賣ヲ為シ取ルヘキモノ之ヲ取ル不動産
ハ少シ手ツキアセ^ル則チ前ニ同シ之レニテ

司法省

裁判執行ハ済ヤナリ

欠席裁判ノ執行ハ如何スルヤトナレハ則チ
出席裁判ト同シ係レ故障ヲ述フルナリ
ソノ故障ヲ述フルハ過日詭タル如ク裁判
執行ノ終ルニテハ宜シ

第百五十八條ト百五十九條ノ法律ニ云フ所
ロハ欠席裁判ヲ言渡シタリ^ルニ猶被告人ニテ
知ラサレテ恐ル依テ裁判執行ノ終ルニテハ
故障ヲ述フル^ルト苦シカラスト為スナリ

ソノ故障ヲ述フ^ルニハ裁判言渡書ト使吏ノ

命令書トヲ送リタルトキ故障ヲ述ヘ又ハ財産
取押ヘノ書付ニ對シ故障ヲ述フヘシ
ソノ故障ヲ述フル方法ハ此裁判ニ付故障ア
リト書ク

使吏ノ命令書ニモ本書ト寫シトアリ必ウス
其二通トモニ故障ヲ書入ルヘシ

万一命令書ヲ送リタルトキ被告人ノ居ラ
サルコトアルヘシソノトキハ被告人ニテ財産取
調ニ來ル時故障ヲ述フ

或ハ禁錮セララルコトナラハソノ時ニ述フ或ハ

司法省

糶賣ヲ為ス為メニ財産ヲ運ビニ來ルハニ
述フ

或ハ糶賣ヲ為シテ居ルトキニ之レヲ述フ

ソノ糶賣ノトキニハ評價人アリテ立合フマ
レハ代書人ト同シク官吏ナリ

ソノ評價人ハ財産ヲ何ノ誰ヘ賣リタリト
調書ヲ依ルモノナリ

ソノ調書ニ對シテ故障ヲ述ヘタルノミニテ
ハ済ニス

ソノ故障ヲ述ヘタルヨリノ日ノ内ニ代書師

ヲ立テ原告人ノ代書師ハ其事ヲ言ヒ送ル
ナリ

ソノ八日内ニ此手續キキヲ為サレハソノ故
障ノ効ナキヲ以テ原告人ハソノ裁判言渡
ノ通り続イテ執行ヲ為スナリ

之レヨリ後ハ原告人ノ代書師死去シ又職
ヲ止メタルキハ被告人ヨリ原告人ノ代書
師ハ故障ノ書付ヲ送ルコトヲ得ス此トキハ原
告人ニテ更ニ代書師ヲ任シタルコトヲ被告
人ニ送達シソノ後被告人ニテ代書師ヲ任シ

司法省

原告人ノ代書師ハ故障ヲ述フルコトヲ説ク
故障ヲ述フルニハ必ラスソノ故ヲ言ハサル
ヘカラス

一旦故障ノミヲ言ヒソノ後ニソノ故ヲ言ヒ
遣ルトキハソノ書付ノ費用ハ代書師ノ自
費ニ屬シ被告人ヨリ拵ハレムルコトヲ得ス

問 ソノ八日内ニ糶賣等ノ入費ハ何レヨリ出ス
ヤ

答 八日ヲ過キテ被告人代書師ヲ立テス確定
ノ裁判トナリタルトキハソノ入費ハ必ス被告

ヨリ出ス若シ代書師ヲ任且ツ勝訴訟
トナリタルトキハソノ入費ハ原告人ヨリ
出シ且損害ノ償ヲモ出ス
之ヲ要スルニ原被モ係ハラヌ負ケ訴訟ヨ
リ入費ヲ出スナリ

第百六十三條 裁判所ノ書記局ニ簿冊ヲ設ケ
置キ故障ヲ述フル者ノ代書師其簿冊ニ被告ノ
姓名並ニ己レノ姓名裁判言渡及ヒ故障申
述書ノ日附ト其申述ノ日附トヲ簡略ニ記ス可
シ但シ其記シタル書ノ寫レヲ受取リタル時ニ
非レハ其記録稅ヲ出スニ及ハス

司法省

解ニ雜キナシ

第百六十四條 原告人又ハ被告中一方ノ者抗傳
者トナリテ言渡サレタル裁判ヲ其訴訟ニ管セ
ラル者ニ對シ執行ハントスルハ書記局ノ簿
冊ニ故障申述ノ書ヲ記シタルヲナキ旨ヲ証
シタル書記官ノ請合書ヲ渡スヲ必要トス
欠席裁判トナリタトヘハ甲負ケタリ乙ハ
勝ケタリソノ時ハ甲ハ對シテ執行スルナリ
然ルニ外人ニ對シテ執行フアリ一言ニテハ

愕然タルヘシ係レ之レアリタトハ甲ヨリ
財産ヲ丙ヘ預ケタルトキハ丙ニ對シ執行ハ
サルヲ得ス又被告人ニラソノ品ヲ典シタル
キハソノ典鋪ニ對シ執行ハサルヲ得ス尤モ
ソノ手續ウキハ違フナレトモ此ノ如キ場合
アルナリ

典シタルキハ必ラス典鋪ヘ掛ル典鋪ニテハ
ソノ金額ヲ拵フヘシ但シ書記局ノ書付ヲ
持參セサルハカラス之ヲ持參セサレハ典
鋪ニテハ承諾セサルナリ

司法省

百六十三条ト此条ハ一條ニ為レテヨロシ
故障ナキ旨ヲ書記局ヘ陳述シ使吏ニテソ
書付ヲ典鋪ヘ見セルナリ

此書付ハ本書一通ナリ
典鋪ナレハ鋪ニモ權利アリ原告人ニモ權
利アリソノ双方ノ權利ヲ害セサレ為メニ
為スモノナリ

一應ノ預リ人ナレハ權利ナシ係シ証書ナ
クレハ渡サミルナリ

問 評價人ハ財産取押ヘノ時ニ来ラサレキハ

答
ソノ財産ノ見積ハ出来サルニアラスヤ
評價人ハ糶賣ノトキハカリナリタトヘハニ
百圓ノ訴訟ナレハ被告人ノ財産ヲ尽ク
取押ユルヲハナラス大抵二百圓位ノ見積
リテ以テ取押ユルナリ使吏ハ大抵財産ノ
代價ヲ知ルモノナリ
繁華ノ地ニアラサレハ評價人居ラス使吏ニ
テ之レヲ兼ヌルナリ
更ニ一ツノ外人ニ對スル執行ヲ説カントスレ
此例併ニテ尤モ多シ

司法省

タトムハ甲訴ヲナシテ乙負ケタリソノ負債
ニ充ルノ財産ナル然ルニ丙ニ乙ヨリ借シ金
アリソノトキハ甲ヨリ裁判所ノ書記局ヨリ
出ス書付ヲ以テ直ニ丙ヘ取リニ行クナ
リ
ソノ時ハ丙ハ必ラス書記局ヲ証書ヲ見クル
上ニテ渡スヘキナリ

此証書ハ被告人ノ故障ヲ述ヘサレ証拠ナリ
此外人ハ訴訟ニ聊カ關係ナキモノニアラス
何トナレハ被告人ヨリ借リ金アルニハナリ

第百六十五条 一度差出シタル故障申述ノ書
ヲ部還スル言渡ニ付テハ更ニ故障ヲ申述フル
コトヲ許サス

短文ナレトモ宜シク注意スヘシ

一度裁判言渡ノ故障ヲ止メラレタルモノ
ハ再ニ故障ヲ述フルコトヲ得カレナリ
ソノ故障ヲ述スルコトヲ許サレルナリ何ト
ナレハ裁判所ヲ愚弄セサル為メニ此ノ如
クスルモノナリ

人アリ始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリ

司法省

タルトキハ故障ヲ述フルコトヲ得ヘキヤト云
ハ可ナリト云ハシ然ラハ再度ノ欠席何ノ
為メニ故障ヲ述フルコトヲ得サルヤト云ハシ
最初既ニ欠席裁判トナリタリ再度ノ欠席
ニハ故障ヲ述フルコトヲ許サスト答ヘンノミ
大意ハ一度ハ許ルスニ度ハ許サスト云
ニテナリ

一度欠席裁判トナリタルトキ式ニ違フシル
書付ヲ送ルカ又ハ始末書ヲ出サスシテ
再ヒ欠席裁判トナリタルニ付故障ヲ述ハ

タルトキハ再ニ故障ヲ述フルコトヲ許サ
ルナリ

係シ第百六十四条ノ場合ハ此条ノ取リ除
ケナリ

裁判取ノ手教ヲ經ストモ宜シキト云フトモ
亦手教ヲ經サルヘカラサル場合アリ

シトヘハ使吏既ニ命令書ヲ送ルトキ故
障ヲ述フルニ付キ八日間ハ執行ヲ中止ス

ルトモ是ニ被告人ニテ代書師ヲ立テサルユハ使
吏ニテツノ家ニ行キ財産取押ヲナスニ被告人不

司法省

兼知ヲ言フトキハ使吏ハ裁判官ニアラス止
ムコトヲ得ス裁判所ヘ呼ヒ出スコトニナルナリ
問ツノ時ハ兵隊ホリスハ用ヒサルヤ

答之レハ抗拒スル中ニ限ルナリ

以上ノ場合ニ於テハ原被双方トモニ裁判所ヘ
出ツツノ時ハ使吏ニテ原告人ノ代書師ハ言
ヒ送り被告人モ代書^師ヲ立テ裁判所ヘ出ツ
ツノトキ裁判官ハ初メノコトヲ言ハス被告
人ノ故障ハ立タサルニ因リ早ニ執行セヨト
言渡スノミナリ

第百六十五條ト第百六十二條ト合せて見ルハ
ハ大イニ及スル如クニ見ユルト雖此命令
ヲ受ケケル場合下リタトヘハ罪ヲ犯シテ六
ケ月禁錮ノ刑ニ處セラルトキハ六ケ月
ヲ過ッレハ命令書ナリシテ執行スルト雖
万一ソノ罪人ニテ故障ヲ言フトキハ裁判
所へ出ツルナリ

之レト同シク八日ヲ過キタルト雖此被告人
ニテ故障ヲ云フトキハ裁度モ裁判所へ出ラ
サレハカラス三度ナレハ三度モ出テケルハ

司法省

カラス係ニ裁判官ニテ之レカ防キラ付ケル
ナリタトヘハ此裁判ヲ遂ケケルハ一日ニ何
程ノ費用ナリ之レヲ拵フヘント言渡スナリ
時ニヨリ使吏ニテ遂ケレムルコトアリ万一ソ
ノ見込ミノ違ヒタルトキハ使吏ソノ損害ヲ
引受ケテ行フナリ右ノ場合ニテハ決シテ使
吏ノ見込ミ違ハカルモノナリソノ時被告又
子ヲ出ストキハ兵隊ホリスヲ掛タルナリ
尤モ使吏ハ兵隊ホリスノ助ケヲ求ムルノ權
アリ

至急裁判ノトキハ大抵使吏ニテ行フナリ
使吏ノ役目ハ所要ナルモノナリ訴訟法ヲ立
ルニ繁冗ニ渉ルハ好ニツト虽使吏ハ立テ
サルヘカラス

之レハ官吏ニハ行ハシメサル方ヨロシ身元ノ健
カナルモノニ身元金ヲ出サシメテ為サシム
ヘシ

官吏ニ使吏ノ役目ヲ命スル所ハ急リ又官
推ヲ以テ推外ノ威ヲ振フテニテ弊害アレ
トナリ何トナレハ官吏ヲ罰スルハ裁判所ニ

司法省

テ甚ク斟酌アルモノナリ而メソノ害ハ惣テ人
民ニ帰ス

佛ニテハ使吏ヲ嚴ニ罰スルナリ

官吏トナレハ之レヲ罰スルハ斟酌アリ

書記等ノ抹人ハ惣テ裁判所ニテ嚴酷ニ罰
スルナリ

故ニ人民ハ大イニ安心シテ居ルナリ

法律ノフヲ巨細ニ説ヨリハ書記代書師又
ハ使吏公証人評價人ヲ立ツルヲノ相談ハ
尤ニ難渋ナリ

何トナレハ以上ノモノハ惣テ都合ヨロシキ
モノナレモソノ弊害ノナキ様ニスルハ困難
ナルモノナレハナリ

第九章

第百六十六條 総テ外国人ハ至タル原告タル
ト原告ノ訴訟ヲ助クル者タルトヲ問ハス被告
人ヨリノ要ヲ受クルニ於テハ総テ訴訟ノ故障
ヲ速フル前ニ裁判所ノ費用及ビ被告人ニ損失
ノ償ヲ持フ可キノ言渡ヲ受クル時之レヲ持フ
可キノ保証人ヲ立ツ可シ

司法省

尋常ノ訴訟裁判ニ至ルニテノ手續ハ呼出状
ヲ送り答辨書ヲ造リ検事ハ告クヘキ^一ハ告
ケソノ後双方裁判所ハ出テ理非ノ分リタ
ル上ニテ裁判トナルハ面倒ノナキ^一ナリ
欠席裁判ナレハ故障ヲ云ヒソノ上ニ又裁判
所ハ出ツルト云フ混雜ヲ生ス

然ルニ各種ノ訴訟裁判中ニ不意ノ面倒ナ
ル^{種々}フ起ル^{種々}フアリソノ面倒ハ裁判ノ初メニ
起ル^{種々}フアリ又裁判ノ半ニ起ル^{種々}フアリ第一
ニ起ル^{種々}フアリキロプレヨント云

「エキセプレヨシ」ノ語ニ於テニ夕通りノ意味
アリ

民法ト訴訟法ニ依テ違フナリ

民法ニ於テハ事柄ノ原因ニ故障ヲ述フル
意ナリ

夕トヘハ此権利ハ既ニ解ケタリトカ又ハ此
負債ハ既ニ拂ヒタリト云ヒテ防クナリ

既ニ説ク所口ノ中ニモ間々此語アリ偽委
シク指示スヘレ夕トヘハ連帯スル負債ア
リソノ一人ノ云クニハ此負債ハ借金トナル

司法省

ハキモノニアラヌトカ又風俗ニ違フトカ又ハ
契約ニハナラヌトカ云フノ類即チ之レ「エキ
セプレヨシ」ナリ

民法チ二百八條ニアリ又チ三百四十條ニア
リ又チ三百六十一條ニアリ

之レ皆チ契約編ニアリ就テ見ルハレ

以下訴訟法ニアル「エキセプレヨシ」ヲ説カン
トス

訴訟法ノ「エキセプレヨシ」ニ於テモ同シク故
障ヲ述フルナレトソノ訴訟ノ原因ノ故障

ヲ云フニアラス之レハ式ニ違フナリト故障
ヲ云フモノナリ

今ツノ例ヲ挙ケントス違フヤ違ハサルヤ着ル
ヘシ

タトヘハ外国人ノ佛ニテ訴訟ヲ為スニハ必
ラス保証ヲ立ツヘキ式アリ故ニ佛人ハ外国
人ニ對シソノ訴ノ原因ニハ関セス訴ヲ為
ハ必ラス保証ヲ立ツヘシト求ムルコトアリ
呼出状ノ取リテ既ニ裁判所ノ管轄異ナル
コトヲ説キタリ右ノ場合ニ於テハ訴ノ原因ニ

司法省

ハ関セス先裁判所ノ管轄異ナルコトヲ云フ
之レエキセフシヨコナリ

呼出状ハ面倒ナル式アリソノ呼出状ヲ披見ス
ルニ式ニ違ヒタリソノ時ハ裁判所へ出テ此呼
出状ハ式ニ違ヒタルヲ以テ出席セスト云フ
ナリ

タトヘハ延期ヲ願フトキソノ期限内ニ訴ヘ
テ受クルトキハ未タ訴ヘノ起ル期日ニハア
ラスト言フナリ

今説ク所コノコトエキセフシヨコレハ場合又ハ式

ニ違フト云フヲナリ

式ニ違ヒタルニ付キ式ノ如クモヨト云フ
ナリ

司法省

訴訟法會議筆記

七年十二月廿日

司法省

第百六十六條 第百六十七條

今日ハエキセフシヨニ即チ故障ヲ速フルヲ
説カントス

過日説タル外国人ノ訴訟ヲオストキハ保証
ヲ立ツル規則ナリ

民事ニ付イテハ外国人人民モ佛国人人民モ
ト同種アリ

係シ聊カノ違ヒアリ

元ヨリ政推公推ニ至ツテハ外国又ト佛人トハ

司法省

餘程違フナリ

以前ハ外国人百五十コフランクノ元金ヲ借りテ
返スコトヲ得サルトキハ禁錮セラル佛国人ハ三
百コフランクノ借金ヲ返スコトヲ得サルニアラサ

レハ禁錮セス

右ニ通り外人ト佛人トノ違ヒアリタレモ今ハ
外人モ佛人モトモニ一切禁錮ヲ廢シタリ

今日内外ノ違ヒ聊カアリト云フコトハ差支ナキ
トト思フナリ之レハ内国人ノ便利ノ為メナレ
ハナリ

ソノ違ヒハ若シ外人原告人ニテ内國人ハ對
シ訴訟ヲ為ストキハ請人ヲ立テサル可カラス
何トヤレハソノ訴事ヲ取上ケサルトキハ訴訟
人費ヲ生ス之レ拵ハサル可カラス入費ヲ本人
ハサルトキハ之レニ代リテ拵フモノナカルヘ
カラサルナリ

外国人ノ被告人トナリタルトキハソノ請人ヲ
立ツルニ及ハス

ソノ外人ハ受人ヲ立テ内人ハ受人ヲ立ツルニ及
ハサル詎ハ外国人ハ佛國ニ居ルニ住所ノ定ニ
司法省

ラサルモノヤル可シ之レハ住所ノ定ニラサル
ニ付キ万一負訴訟トナリタルトキハ本國へ送
ル等ノフアルモ計ルヘカラス

外人ニテモ住所ノ佛ノ定ニリアレハ訴訟入費
等ハ聊カノフニ付テソノ住所ヲ立テ去ルコトハ
ナレ必ラス立テ止ニリテソノ訴事ヲ了スヘシ
ソノモノニ便利トナルコトナレハナリ

然ルニ住所ノ定ニラサルモノハ必ラス逃走ス
ルナリ

外国人ノ被告人トナル時ハソノ訴訟入費ヲ拵

フノミナラス本件ノ元利ニ至ルニテラ仕掛ハサルヲ得サルナリ

其原告人トナリタルトキハ訴訟入費ヲ出スノニ被告人トナリタルトキハ訴訟入費ノ上ニ元利トモ掛フヘキニ受人ヲ立テカレハ何ノ為メソヤ

被告人トナリタルトキハソノ悪キキヲハ誰レモ知ルヘキナリ仍テ受人トナルモノアルヘカラス法律上ニ於テ強テ之レヲ立テシムルヲ能ハス

司法省

ソノ所以ハ受人ナケレハ裁判所ヘ出テ防クコト能ハス

裁判所ヘ出ツルコト能ハサレハ欠席裁判トナル更ニ八日ヲ過キテ故障ヲ述フルコト能ハス殊ニ確定ノ裁判トナリテハ上告スルコトヲモ能ハス夫レニテハ甚タ危ノ毒ナリトシテソノ被告人タル時ハ受人ヲ立ツルコトヲ法律ニ立テサリシナリ

原告人ノトキハ保証人トナルモノナリトモ格別害ハナシ

元來三十ヶ年ノ「フレステクシヨシ」アリソノ長キ
間タニ受人ヲ頼ムトキハ自然ニ頼ニルモノ
モアル可シソノ人ノ權利ニ害ヲキ「ナリ」仍
テ受人ヲ立ツル「ナリ」為シタリ

問 外国人原告トナリタルトキ受人ナクシテ
訴フル「ナリ」得サル場合ニハ如何ス可キヤ

答 呼出状ヲ送達スル丈ケハ出来ルナレトモ裁
判所へ出ツル「ナリ」能ハス

佛人ノ原告トナリ外国人ノ被告ニ受人ナキト
キ「ナリ」原告人ハ待タスレテ欠席裁判ト為シ

司法省

ラ仕舞「ナリ」

外国人ノ原告トナリ呼出状ヲ送達スルトモ受
人ナキ時ハ三十ヶ年ノ「フレステクシヨシ」ヲ延へ
何時「ナリ」テモソノ訴訟ノ權利ヲ失ハス此違ヒ
アルユヘ此ノ如クニナレタリ

受人ハ容易ニ得ヘカ「ナリ」受ルモノナリトモ此ソ
ノ人ノ正実ナルトナラハ受人ナキ「ナリ」ハアルヘ
カラス然ルニ受人ナキ「ナリ」ハ必ラス不正ノ
「ナリ」見ルヘシ

被告人ニ道理アリテ此事ハ正シキト思フトキ

ニハ受人ヲ要セス

被告人ト云フモノハ必ラス悪キキト見サレラ
得ス然ラハ受人ヲ得ルヲ能ハサレハ必ラス欠
席裁判トナルハ実ニ憫然ナリト思フヨリ立テタ
ル法ナリ

外国人ニ於テハ受人ヲ見出スヲ得サルトキ
ノ補ビトナルハキ為メニ保証金ヲ出シテ済ム
フアリ

原告人タルモノ伊国ニ不動産ヲ所持スルトキ
ハ受人ヲ立ツルニ及ハス

司法省

受人ヲ立ツルト保証金ヲ出ストハ民事ニ関ス
ルヲノミナリ商事ニハ絶テ毎レ

第一ニハ伊国ニ住所ヲ定ムルヲ

第二ニハ商事ニ関スル事件

此ニツニハ受人ヲ立ツルニ及ハストス

受人ニ代ルヘキモノニツアリ

不動産ヲ所持スルトキ又保証金ヲ納メタルト

キ

之レハ受人ヲ立ツルニ及ハス

不動産アリ又金ヲ出シテ人ニ代ユルトキ其高

ヲ毎限ニナスコト又ハ不足ニスルコトハナラズ仍
テソノ訴事ニ付テ何程ノ高ト定ムルコトハ裁判
所ニテ之レヲ定ム

第百六十七條

此條ハ三ツノ事ヲ含ム

第一ハ受人トナル可キモノ何程ノ金額ニテハ
保証スルコト定ムルコト

第二ハ金額ヲ官署ニ預ケルコト

第三ハソノ金額ニ代ルヘキ不動産ヲ所持ス
ルコト

司法省

佛ニ住所ノ定リタルモノト商事ニ関スルモノ
トハ此所ニハ書テナシ

民法第十三條第十六條ニ出ツ

此二條ノ全文ヲ此所ノ注ニ出ス可シ

民法ノ十三條ノ皇帝ノ允許ヲ受ケテ佛國ニ住
居スル者ハ佛人ト看做スナリ

十六條ノ云フ所ハ商業ニ関スル云々トアリテ
商事ヲ云フナリ

以上ノニヶ條ヲ民法ニ入レソノ他ノコトヲ訴訟
法ニ入ルコトハヨロシカラズ

民法ヲ書キ直シテ佛國ニ住居ラ定メ又ハ商
業ニ関スル者ハ訴訟法第何条ヲ見ルヘシト書
キ訴訟法ニ於テ委シク書ク可キナリ
故障ヲ述ル方法ハ第百六十六條ニアリ此条ノ
始メニ歐米亞細等ノ區別ナク惣テ外國人ト
書テアリ

然ルモソノ取除アリ何トナレハ各國ノ條約ニ
ヨリテアルジツクレスエスレ^{「ハルデーニ}ヤ此三ヶ國ハ條
約ニヨリテ受人ヲ立ツルニ及ハツ

ナルデーニシハ佛ニ隣セル一小國ナリシガ^{「イタ}
司法省

リヤレニ俛セラレタリ

ソノ^係セラレタルニ付キ^{「イタリヤレノ}全國ニ此法
ヲ及ホスヘキカ又ハ元トノ^{「サルデーニレノ}ミニニ
用ユヘキカラ論レタルニ巴里ノ控訴裁判所
ニテハ元トノ^{「サルデーニレノ}ミニニ用ユル方ト定
メタリ
以上ノ三ヶ國ハ佛ニテ受人ヲ用ユルニ及ハサ
ルヲ以テ佛人ノ此三ヶ國ヘ行クモノモ受人ヲ
用ヒサルヲナリ

此三ヶ國ハ佛ニ隣セル國ナルユヘ日ニ訴訟ニ

少ナカラス受人ヲ立ツルニ及ハサルコトス
此法ハ大抵コートノ出来ル頃ヨリ始メリタリ
ロイスレ十八世王政復古ヲナシタルトキナリ
此事ヲ何ノ為メニ為シタルト云フニロイスレ十
八世ノ頃ニ外人ニ地所ヲ賣ルコトヲ許シ金ノ多
ク入ルコトヲ欲シタリ

右ニ付キ物件取戻シノ容易ニ出来ル為メニ此
法ヲ設ケタルモノナリ
ソノ次ニ主タル原告ノ訴訟ヲ助クルトハ外ヨ
リ出テ原告ノ権ヲ保護スルモノヲ云フナリ

司法省

之レハ訴訟ノ起リタル後ニ出来ルコトナリ
助クト本ヒテ仲ニ入ルコトハソノ正條アリ仍テ
茲ニ委シク説カス
被告人ヨリ要メテ受クルトキハト書イテアリ
之レハ尤ヨリ裁判所ヨリ云付ケルトニハアラ
ス何トナレハ之レハソノ一人ノ益ノミニテ一
般ノ公益ニアラス故ニ要ムルトキハ之レヲ言
付ケルナリ

此如キ次第ナル故代書師ナカレ可カラス
之レハ被告人ノ代書師ニテ要メサルヘカラス

万一被告人の代書師ニテ要メラルトキハ被告
人の代書師ニツノ責マリ

訴訟ノ故障ヲ述フル前ニトアリ

訴訟ヲ述フルニ種類アリト云ヒ此条ニ説ク所

ロヲ第一ニ述ヘサル可カラズ

万一一ト度ニ此妻ヲ止メテ外ノ事ヨリ着キヌ

ルトキハ此事ハ為スヲ得サルナリ

此条ノ説キヲラサル前ニ議論アリ外国人ト外

国人ト訴訟ヲ為ストキハ受人ヲ立ツヘキヤ又

ハ侍人ノ被告人トナリタルトキノ特推トナヌ

司法省

ヘキヤ

一般ノ説ニハ外国人ト外国人トノナラハ受人

ヲ要ムルノ權ナレト云フ説ナリ侍ノ裁判所

ノ説モ同シ

ホアツリマート案スルニ一般ノ説ハ法律ニ悖リ

且ツ法律ノ意ニ悖ル

元素原告人ニ請人ヲ立テシムルハ被告人ノ難

儀ヲ救フ為メ立テタルモノナリ然ラハ外国人

ナリトモ侍人ナリトモ同シキニアラス

侍ニ任スル外国人ハ聊カノ違ヒハアレ侍民

推ラ受クルトアルニ外国人ノ「ハ此條ニ取り
除クルト書テナレ

然ラハ外人モ區別ナカルヘシ

尤モ此條ニ佛人ニアラサレハナラヌ書イテアル
ハ格別ナレト書イテナキ上ハ此條ノ意ニアラ
ス

尤ヨリ外国人タリトモ佛國ニ住居スルモノハ
同シク保護セラルヘカラスツノ外国人ニ對ス
ル外国人ノ原告人ノ逃ケタルトキハ被告ノ外
國又ノ迷惑トナレ此ノ如キ偏頗ノ取扱ヲナス

司法省

ノ理ナレ

タトハハ日本人佛ニアリテ孝人ヨリ訴訟ヲ受
タルトキ孝人ノ理立タスレテ孝人ハ逃ケ去リ
シリ然ルトキハ日本又ハソノ入費ノ損失ヲ受
ク佛ニテ外国人ノ日本人ニ此ノ如キ損失ヲ生
セシムルハ為スハキナラヌ仍テ外国人ノ原告
人トナルトキモ請人ヲ立テシムル方宜シト
思フナリ

仍テ日本ニテ日本人被告人ニテ外国人ノ原告
人ニ請人ヲ立テシムル「ア」ラハソノ被告人外

国人ナルトキモソノ原告タル者外國ナラス共
受メテ立テレケル方ナリト思フナリ
第百六十八條

此條ハ裁判所ノ権内ニアラサルヲ以テ故障ヲ
述フルヲ云フ

裁判所ニテ何々ノ裁判所へ出ツヘレト云ヒテ
受理セサルトキハ又此事件ハ此裁判所ノ権内ニ
アラスト云ヒテ取上サルトキトアリ

右ニ付テ四ツノ場合アリソノ時ニハ裁判所ニ
テ取リ上ケス

司法省

ソノ内ノ二ツハソノ裁判所ノ権内ニアラサル
ヲ以テ取リ上ケス

第三ハ他ノ裁判所ニテ訴訟ノ既ニ始メリテ居
ルモノヲ此裁判所へ訴へ来リタルトキナリ
第四ニハ既ニ他ノ裁判所ニテ起リタル訴訟
ヲ此裁判所ニ持テ来ルトキソノ事件ハ他ノ
裁判所へ牽連スルヲ以テ他ノ裁判所ニアラ
カレハ受理スルヲ得サル為メニ此裁判所ニテ
取リ上ケス

以上四ツノ内三ツハ原被告人ヨリ申立テ告シ

カラス

之レハ一般ノ公益ニ関スルコトナルニハ原被ハ勿
論檢事ヨリ申立ツ

万一申立ナキトキハ裁判所ヨリ言付ルコトアリ
第一ニ被告人ノミニアラサレハ言ヒ出スコトヲ
得サレコトアリタトヘハ人權ニテ訴ヲナスハ被
告人ノ住所ノ裁判所ナレコトハ定テリタルコトナ
リソノトキハ裁判所ノ違ヒタリト故障ヲ述
ブ可シ

司法省

遺物相續ノトキハ死人ノ住所會社ノトキハ會
社ノアル地ノ裁判所アリ仍テソノ混雜ヲ生
スルコトハ澤山アリタトヘハ人ノ住所ヲ換ユ
ルニミ知ルコトヲ得サルコトアリ間違トナルコ
ト多シ一般被告人ハ被告人ノ住所裁判所ト定
ミコリタルコトナレハ間違ハナケレトモ遺物相續又ハ
會社等ノ一般ノ法律ノ取除アルニユヘ間違トナル
契約ニヨツテ依リニ住所ヲ定ムル等ハ間違多
シ

コノ法律ニ取除ケノアルコトニ付テハ代書師ハ

間違ハナキモノナレ氏人ノ住所ニ轉シタルニ
付テハ間違アリ

被告ノ呼出タサレサル可キ所口ノ推外ノ
裁判所へ呼出タサレタルトキハ第一ニ故障
ヲ述ヘサル可カラス

物件ノトキハソノ所在ノ裁判所ナルコトハ原
則ナリ然ルニ被告又住所ノ裁判所へ呼出
サレタルトキハ直チニソノ間違ヒタルヲ
言ハサルヘカラス

住所ヲ間違ヘ又ハ物件所在ノ違ヒタル呼出ノ

司法省

コトハ一般ノ公益ニナラス一己ノ私益ナルコトハ
被告人ヨリ故障ヲ述ヘサルトキハ裁判所ニテ
ハ之レヲ其終受理スルナリ

此違ヒタルコトヲ傳ニテハ人ニ對シテノ違ヒト
云フ

之レハ辭ノ足ラサルナリ住所ノ違ヒタルモ物
件所在ノ違ヒタルモ共ニ人ノ違ヒト云フハ不
当ナル辭ナリ

人ノ利益ニ於テノ推外ト云ヘハ宜シ人ノ違ヒ
トノミ云フトキハ言葉廣キニ過クルナリ之レ

ハ被告人ノミノ違ヒナレハナリ

第百六十八條ト百六十九條

此百六十八條ノ文ノミニテハ少レク辭ノミラ
カルヲ覺フ何ノ為メト云フ辭アルヘシ

物件人推ニ係ハラスト云フ方ヨロシ

未文ニ為スフヲ得ヘレトアルハ被告人ノ隨
意ニテ訴ヲ為スニ為サシルモ勝手次第ト云
フ意ナリ

管轄ニアラサル裁判所ニ呼ビ出サレタケモノ
ハノ意ナリ

司法省

第百六十九條ノ未文ニハ前條ノ訴ヲ為ス可レト
アルハ勝手次第ニハアラス必ラス之レヲ為ス可
レト云フ意ナリ

第ニノ權外ト云フハ訴訟ノ事件ノ違ヒタル
ヲ云フ

ソノ例ヲ挙ケシ

商事裁判所へ訴へ出ツヘキヲ民事裁判所へ訴
へ出テタルトキノヲ云フ之レニ及スルモ亦
同シ

行政裁判所へ訴へ出ツヘキヲ司法裁判所へ訴

へ出テタルモ亦同シ

刑事ニ訴フヘキヲ民事ニ訴フルヲ稀ナルヲ
ナレ民事ニヨリ検事ニテ間違ヒタルトキモ同
シ

第二ノ所口ナレハ訴訟事件全ク違フユヘ裁判
所ニテ知ラサレハカラス

第一ノ分ハ人違ヒユヘ裁判所ニテハ知り難シ
此事件ノ違ヒハ裁判所ニテ知ラサレ可カラス
之レハ公益ニ係ルヲナレハ商業ハ商事民事
ハ民事各々手慣レタル裁判所ニテ受理ス可キ

司法省

ナリ

第一ノ人ノ違ヒト第二ノ事件ノ違ヒトニ付
テ三ツノ違ヒアリ

人ノ違ヒハ被告人夫ケノ違ヒナリ事件ノ違
ヒハ原被告ニ檢事ヨリ訴ヘテ告レカラス之
一ツナリ第二ノ違ヒハ前条ニハ初メニ云ハサ
ルヲ得スト云ヒ事件ノ違ヒハツノ裁判ノ終リ
ニテハ云フヲ得ルト云

第三ノ違ヒハ原被告ニ檢事ヨリ云ハサレハ裁
判所ニテ之レヲ云フ

第百七十條

若し本人之レヲ求メサル云々ハ原文ニハ若シ
之レヲ承メヨルトキハト書キテ誰ト云フヲ
書テナレ之レハ法律ノ欠ケナリ

余ハ原被告并検事ト書クヘシト思フ係レ誰レ
ト書ストモ害ハナシ

何トナレハ検事ハ公益ニ関スルヲ皆ナク
モノナレハナリ

只今説ク所口ハ人ノ違ヒ事件ノ違ヒノニツ
ナリ

司法省

後ノニツハ法律ニ欠ケテアルヲ前ヨリ甚シ

第百七十一條 第百七十一條ヲ云フ

訴訟法ヲ編ム可シト云フキハ裁判官代
言人并ニ生徒ノ為メニ此邊ヲモ了解シ易
キ様ニ記スヘシト思フナリ

訴訟法會議筆記

七年十二月廿五日

司法省

七年十二月廿五日

過日ニツノ一ニ付テ一ツノ裁判所ヨリ他ノ裁判所ヘ送ルヲヲ説キタリ

第一ニハ人ニ付テ裁判所ノ管轄ノ違フヲナリ
第二ニハ事件ニ付テ裁判所ノ管轄ノ違フヲナリ
初メノ人ニ付キ裁判所管轄ノ違フヲハ被告人ノ住所ニ呼出スヘキモノヲ他ノ裁判所ヘ呼出シタルトキナリ

又一ツハ物件所在ノ地ノ裁判所ヘ呼出スヘキモノヲ他ノ裁判所ニ呼出シタルトキ人ニ付

司法省

テノ權外ト云フヲナリ
人ニ付テノ權外ハ全クソノ人ノ益ニテ私益ナリ仍テソノ人ヨリ外ハ權外ノ一ヲ訴フルヲ得ス

第二ノ訴訟事件ニ付テ裁判所ノ權ノ違フハ原被告ニ檢事ヨリ訴ハサルヘカラス
若誰ヨリモ訴ハサルトキハ裁判所ヨリ公然申渡シテ可ナリ

事件ニ付テノ權外ノ事ハ裁判ノ始ニヨリ終リニテハ訴ヘテ可ナリト云ヒ人ニ付テノ權外

ノ一ハ始メニ訴へサルヘカラス猶ニツノ一
ヲ説キ残シタリ第一ニ既ニ一ツノ裁判所
於テ起リテマル一第ニ一ツノ訴訟ニ添ッ
ル訴訟ノ一ハ未タ説カスツリテスハシタレ
訟^事起ウ裁判所ト云ク^テ訴訟^事精クイヘ
一ツノ裁判所ニ於テ訴訟ヲ起リテアル最中
ト云フ一ナリ

司法省

既ニ一ツノ裁判所ニ訴へタル一ツ又他ノ裁判所
へ訴フルトキハ一ツノ事柄ニシテ種々ノ
裁判トナルナリ

此ノ如キ不都合ハ避ケサルヘカラス同事件ノ
訴ヲニツノ裁判所へ訴フルハ意外ノ一ト思
ハル^ト云ヒマ々アル一ナリ

人権ト物権ト相混シタル訴訟ハ何レニ於テ訴
ヲ為ストモ可ナルニ付テハ一方ノ裁判所へ
訴ヘ意ノ如クナラサルトキハ又一方ノ裁判
所へ訴フル一ナリ

被告人数人アルトキ一ツノ裁判所へ訴へ去テ
タル^本他^ノ原告人ノ意ヲ以テ更ニ他ノ裁
判所ニ訴フル一ナリ

原告人ニテ被告人ヲ相当ノ裁判所へ訴出サ
ス他ノ裁判所ニ訴へ出テタルトキ故障ヲ
云ハサレヲ以テ既ニ裁判ヲ仕掛タリ然ルニ
原告人ニテ更ニ相当ノ裁判所へ訴タリ
之レ一事件ニ二ツノ裁判所へ訴フル場合ナリ
此時ハ故障ヲ述ヘサルヘカラスツノ故障ハ何
時ニ述フルトナルニ法律ニ於テハ一ツモ其
時ヲ云ヒタルモノナシ

元ヨリ一事件ヲ二ツノ裁判所ニ訴フルハ人民
公益ノ害トナル事ユヘ成リ大ケ防カサル

司法省

ヘカラス仍テ前ニ云フ如ク原被告人並ニ
檢事ニテ訴ヘテ宜シカルヘレ万一此三人ノ
云ハサレトキハ裁判所ニテ言渡シテヨロシ
ト思フナリ

故障ヲ云フ時間ハ始メ訴ノ起ルヨリ裁判ノ終
ルテテハ述テ告シカラスト思フナリ

問 右ノ場合ニ於テ裁判所ニテ氣ノ付カサル
トキハ如何

答 既ニ一ツノ裁判所ニテ裁判ヲ仕掛ケタル
モノラ此裁判所へ訴ヘテ来リタルトキ裁判

所ニテ気ノ付タルトキハ直チニソノ仕掛ケ
タル裁判所へ移スナリ
ソノ裁判ノ始ニ居ルモノハ牽連スヘキモ
ノラ説カントスマ、前ノクニ似タルナリ
今迄説キタルモノハ全ク一ツノ事件ナリ今説
ク所口ハ牽連シタルモノニテ之レヲ離シテ
裁判スルトキハ甚不都合ナルモノナリ
トトハ東京ノ裁判所ニ於テ貸金ノ元金ノ
ヲ訴ヘ又ソノ利金ノ一ヲ大坂ノ裁判所ニ訴
ヘタリ

司法省

右ノ如ク利金ノ事ヲ離シテ訴フルハ不都合ナ
ルナリ元来元金ナケレハ利金アルナシ然ル
ニ其訴ヘラ大坂ニテ知ラスレテ受理スルト
スルトキハ元利ノ裁判區々ナリテ不都合
又一例ヲ挙リ

コミニツノ契約ヲ為スヒ一方ハ丁年一方ハ幼年
ナリソノ丁年者ニテソノ義務ノ執行ヲ
東京裁判所ニ訴ヘタリ然ルニ幼年ノモノ
ニテハソノ契約ノ取消ヲ大坂ノ裁判所へ訴ヘ
タリソノ時丁年ハ東京裁判所ニテ勝テ幼年

ハ大坂裁判所ニテ勝テタリ之レハ相牽連連シ
タルモノユヘニツノ裁判所ニテ受理スルハ不
都合ナリ人民ノ公益ヲ害スル許多ナリ今
ノ義務ヲ東京裁判所ヘ訴タルトキハ之レ
ヲ行ヘト裁判シ大坂裁判所ヘハ取消ヲ訴
ヘタルニ付キ取消ノ裁判ヲ為ス

元利ノ7ニ付テモ同シ元金ノ7ヲ東京裁判
所ハツノ金ヲ持フヘント裁判シ大坂裁判所
ニテハ此金ハ既ニ持ヒタルニ付利金ヲ持フ
ニ及ハスト裁判スルナリ仍テ不都合トナル

司法省

ナリ之レハ必ラス同一ニ裁判スヘント云
フニハアラス氣ノ付タルトキハ同一ニナ
スヘキナリ

此牽連ノ訴訟ハ誰レヨリ訴ヘテ可ナルヤ
被告人ハ元ヨリ便利ナルヲナルユヘ必ラス為
ス可シ併シ被告人ノ氣付カサルトキハ原告
人ニテ之レヲ為ス併シ造意ニテ原告ノ言
ハカレフモアルヘレツノトキハ檢事之レヲ言
フヘシ

ソノ故障ヲ述フル期限ハ始メヨリ終リテ言

フツラ得ヘレ

第百七十一条ニハ誰ヨリ何時ニテ云フトハ書キ
テナレト虽モ人民ノ公益ニカキルコトナル
ニハ前条ト同シキモノト見做スコト得ル
ナリ

第百七十一条

牽連シタル訴訟ハ自然同一ノ裁判所ヘ出テ居
ルモ料ルヘカラス

タトヘハ東京裁判所ノ第一局ニ元金ノコトヲ訴
ヘツノ第二局ニ利金ノコトヲ訴ヘテ居ルヤモ

司法省

知ルヘカラス

第百七十条ハ書キ方ヨロシカラス

又ハ云々以下ノコトハ同裁判所ニテ起ルモ又他ノ
裁判所ヘ起ルカモ知ルヘカラス故ニ此ノ如
ク書キテハヨロシカラス

今日東京裁判所ヘ元金ノ訴ヘヲ為シ又一ヶ月ヲ

過キテソノ利金ノ訴ヲ為スコトアルヘレ

ソノ時ハ初メソノ元金ノコトヲ扱ヒタル局ヘ送ラ
サレヘカラス

タトヘハ甲乙ノ家ヲ借リタリ然ルニ大風ニテ破シ

タルニ付キ甲ヨリソノ修葺ノヲ訴ヘタル
ルニ乙ニテハソノ大風ノ時甲ノ住居セサ
ル間ノ家賃ヲ訴ヘタリ事柄ハ違ヒタリト
モ相牽連スルモノナリ

此条ノ末文ニ訴ノ為スヲ得ヘントアリ之レ
ハ義務ニアラス願ヒテヨコレキナリ

我カ論スル所ハ誰ヨリ願フヲ書キテナキ
ニ付キ原被告檢事ヨリ願ヒテ可ナリト増
補スヘシ更ニ何時ヨリ何時ニテハ願ヒテ可
ナリトソノ時限ヲ書カサレハカラス

司法省

同事件ニシテニツノ裁判所ニテ起リタルコトヲ
説カントス

若シソノ事件控訴ノ為スヲ得ルトキハ控訴
ヲ以テ之レヲ補フヘシ

ニツノ裁判言渡ニ於テ一ツノ方ハ控訴シ一ツノ
方ハ控訴セス

東京裁判所ニテ裁判ヲ受タルモノ控訴ヲ為
シテ又負タリ

大坂ノ原告人ニテ大坂裁判所ヘ訴ヘタリ然ル
ニツノ原告人ハ負ケタリ之レハ控訴セズ

以上ノ一ヲ更ニ言ヒ直サントス

同一ノ事件ニシテ東京大坂ノ兩裁判所ヘ訴ヘ
タリソノトキハ甲ハ原告人ニテ乙ヘ係リテ
訴ヲ為シ勝チタリ乙ハ控訴シテ又負タリ
甲ハ大坂裁判所ヘ訴ヘテ負ケタリ而シテ控
訴セス

東京ノ被告人ハ東京ノ上等裁判所ヘ訴ヘテ
負ケタリ甲ハ大坂ノ上等裁判所ヘ訴ヘテ又負
ケタリ

司法省

然ルニ双方トモニ故障ヲ言ハスレテ止ミタリソノ
時此裁判ハ一方ニテ始マリテアル一ヲ氣付
クトトキハ害ナシ

然ルニ何レトモ氣付カスレテ居リタリ

東京ニテ控訴シタルニウキエヨリ確定ノ裁判
トナリテ動カスヘカラサルモノナリ大坂モ
確定ナリ

兩方トモ確定ニシテ及對ナリ之レヲ補ハサル
ヘカラス

若シ控訴スヘカラサル事柄ニシテ此ノ如ク及

對スルトキハ速カニ補ハサルヘカラス

ソノ補ヒハ訴訟法第五百四條ニアリ

ソノ時ニハ初告裁判所ノ言渡ニモセヨ控訴裁

判所ノ言渡ニモセヨ之レヲ覆審院へ出

スナリ

ソノ時ハ覆審院ニテ之レヲ双方トモニ破毀^毀ス

ルナリ

而レテ後チ双方ノ關係セサル他ノ裁判所へ移

シテ更ニ裁判ヲナスナリ

以下牽連シタルヲヲ説カントス

司法省

牽連シタル裁判モ上等裁判所ニテ補フ

ヲ得サルトキハ覆審院ニテ破毀ス

若シ同一ノ裁判所ニテ各異ノ裁判ヲナシタ

タルトキハレケートシヒルヲ以テ即チソノ

裁判所へ願フナリ

訴訟法第四百八十條ノ第六ニアリ

レケートシヒルトハ丁寧ニ願フト云フ意ナリ

敬慎ノ願書ト云フ傲慢ナラスレテ恭敬

ヲ尽スフナリ別ニ一局アルニアラス

之レ裁判ヲ取直ス非常ノ道ナリ

第百七十二條

之レハ故障ヲ申立タルトキハ直チニ之レヲ裁
判セサルヘカウナルヲ云フ

ソノ他ノ雜事ノ起リタリトキハ之レヲ取調ヘ
テ裁判ヲ為サント云フト虽モ此故障ニ至リ
テハ直チニ之レヲ止メルトモ又続イテ裁
判スルトモ一方ニ決ス

タトハハ初ノ代書師ニテ始末書ヲ出シタル上
更ニ申立アルトキハ初メノ始末書ノ事ト
後ノ申立トヲ一同ニ裁判スルト虽モ此故

司法省

障ハ直チニ裁判セサルヘカウラス

訴訟法會議筆記

八年一月十日

司法部

第三卷

呼出状及び其他訴訟手續ノ書類ヲ
取消ス可キ訴

第百七十三條

總テ呼出状又ハ裁判手續ノ書類ヲ取消サン
トスル訴ハ裁判所ノ管轄異ナルニ付キ其
裁判所ノ吟味ヲ受クルニ故障ヲ述フルヲ
除クノ外總テ論弁ヲ為シ又ハ訴訟ニ付テノ
故障ヲ述フル前ニ之ヲ為ス可シ但シ其後ニ
至ラハ之レヲ為スコトヲ得ス

法律上ニ於テタトヘハ呼出状ニ何々ノケ條ヲ
書キ落セハツノ呼出状ハ効ノナキアリツノ

司法省

トニ付故障ヲ述フルコトヲシヨシノコトヲ
説ク條ナリ

取消ヲ為スハ訴ヘテ聽カス裁判官ヨリ直ニ言
渡スモノニアラス必ス一方ノ者ヨリ之レヲ
訴ヘ取消ヲ求メラル可カラス之レヲナスハ
訴訟ノ前ニ言フコトナリ

之レハ公益ニ関スルコトニアラザレバ以テ檢事
モ原告人モ言ハス被告人ニテ言フヘシ
タトヘハ答弁書ノ如キモノニテ被告人ニテ書
キタルモノニ於テ法律ニ違ヒタル書キ方ナ

ルトキハ原告人ヨリ申立テ取消セラ求ムル
ナリ

訴訟ノ始メニ之レヲ申立テサレハ其権消滅ス
ルナリ

之レヲ訴訟ノ始メニ言ハサレヘカウサレハ元ヨ
リナリト虽モソノ呼出状ハ法律ニ違ハス
レテ訴訟トナリタル上答弁書ヲ法ノ如ク
ニ答カサルトキヲ取消ハソノ答キ付ノ出
テタルトキニ申立ツルナリ

如シ裁判言渡書ノ法ノ如クナラサレトキハ直チ
司法省

ニ申立ツルコトヲ得スソノ時ハ控訴セラ申
立ツルナリ

三ツノ故障アリ

第一ニ裁判所ノ管轄ヲ為ストキ請人ヲ立ツル
コト

第二ニ裁判所ノ管轄ノ違フコト

第三ニハ取消ノコト

係レ右ノ通りニ行カサルコトナリ

タトヘハ三人同シク行クニ三人一同ニ門ニ入
ルコト能ハス

之レト同シク以上ノ三ツノ故障ヲ一同ニ申立
ツルコト能ハサルナリ

此條中ニ裁判所ノ管轄異ナル云々トアルニツキ
裁判所ノ管轄違フコト第一ニ求メ取消ノ
コトハ第二ニ求メサルヲ得ス

如シ外國人原告人トナリタルトキハ裁判所
ノ管轄ノ違フハ抵觸スルトキハ先ツ請人
ノコトヲ求メ次ニ裁判所ノ管轄ノ違フコトヲ
云フハレ何トナレハ是レ被告人ヲ保護ス
ル為メナレハナリ

司法省

裁判所ノ管轄ノ違フコトハ容易ニ云フコト能ハス
取調フルニハ時間ヲ費ヤスナリ故ニ先ツ請
人ノコトヲ以テ其入費ノ補ヒヲ付ケサルハカ
ラス仍テ請人ノコトヲ第一ニ求ムヘシ
如シ請人ノコトヲ取消ノコトト抵觸レタルトキモ
亦即チ請人ノコトヲ先キニ求ムヘシ何トナ
レハ取消ノコトニ付テハ入費ヲ要スルユヘ先ツ
請人ノコトヲ求メ若シ外國原告人由ニレテ其
入費ヲ納メサルモ其請人ヲシテソノ入費
ヲ補ハシメル為メナリ

法律家ニテ此三段ノ順序ヲ立ツルニ付キ若シ
三ツノ故障一時ニ抵觸スルトキハ一紙ニ三ツ
ノ故障ヲ認メ求ムトモ妨ケナントス可シ
之レニテ説ク所ロハ肝要ナルコト思フナリ
又訴訟中ニ前ノ三ツノ故障出来シテ之レヲ順
次ニ解カサルヲ得ルルノ例アリ

其例ヲ挙ケテ解カントス
外國又原告人トナリ他人ニ對シテ訴ヲ為スミン
ノ呼出狀ニ代書師ヲ立テタルコトヲ各カ
ス管轄ノ異ナル他ノ裁判所へ出シタリ

司法省

是レ三ツノ故障ナリ

ソノ外國ノ原告人ノ求ムル事ハ商法ニ付テノ
訴ニモアラス又併ニ任所ヲ定メタル外
國人ニモアラス

其時ハ被告人ヨリ請人ヲ立ツルコトヲ第一ニ求
ムヘシ

民事ノ訴訟ニ付代書師ヲ立ツルハ併ノ規則ナ
リ

然ルニ原告人ニテ之レヲ立テス之レニツノ故障ナ
リ被告人ノ裁判所ノ異ナル之レ亦故障

ヲ云ハサルヲ得ス之レ三ツナリ

三ツノ故障ハ何レヲ先キニ云ハトノ順序ハ法律ニ昏イテナシ

元来三ツヲ一時ニ云フカ又ハソノ順序ヲ立テサレハカラス請人ノ條々ニモ惣テ其余ノ故障ノ迹フル前ニトアリ管轄ノ違フタル裁判所ノ条ニモ惣テノ故障ヲ迹フル前ニトマリ第百七十三条ニ裁判所ノ管轄ノ違フニ付云々ト昏イテアリソノ順序ノ一切云ハサリシ

司法省

此時場子ヲ以テ直似ヲ為シタリ

ソノ三ツノ外ノ故障ト此次ニ訴訟ノ猶豫ト云フナリ

日本ニテ法律ヲ立ツルトキハソノ三ツノ順序ヲ明瞭ニ書クカ又ハ三ツヲ一紙ニ昏クシテ定ムルカニ為ス可シ一帛ニ昏タリトモ少しモ害ナキト思ハルナリ

ホアソナト案スルニ此訴訟法ヲ改正スルノ仕方アルハト思フナリ

之レヲ考フルニ何ノ為メニ訴訟ノ始メヨリ終

リマテ何時モテモ請人ヲ立ツルコトヲ許サ
リレヤ

請人ハ元ト被告人ヲ保護スル為メノモノナリ
然ラハソノ外國人ノ信スヘカラサルトキハ始メ
ニ之レヲ求メルコト固ヨリナレモ始メソノ
人ヲ信スルニ定ル者ナレバハ請メテ立ツ
ルコトヲ求メストモソノ訴訟ノ羊ハニ至リ信
スヘカラサルノ念起ルトキニ之レヲ立テシ
コトヲ求ムルモ聊カ妨ケナシト思フヤリ
始メニ立ツルコトナストキハ始メニ云ハサレハ

司法省

ソノ故障ノ権ハ消滅スルナリ故ニ始メヨ
リ裁判ノ終リマテ何時ニテモ立ツルコトヲ
求ルコトヲ得ルト定マルトキハソノ訴訟ヲ
終ルマテ請人ヲ立テサセスレテ済ムトモ
アルヘシ

併シ此法律ヲ立ツルトキ始メニ立ツルコト定
メタレバ其訴訟ノ長引クヲ恐レタリト考フ
ルヤリ然レモ訴訟羊ニ長引クモ始メ訴訟
トナラサレ前ニ長引クモ同レコト考フルヤリ

此議論ハ我カ鄙見ヲ述ヘタルノミソノ便不便

ハ諸君ノ意見ニアルノミ

訴訟ノ始メニ請人ヲ立ツルコトヲ言立ツヘシト
ナレハ十ノ九ハ立ツルコトヲ云ヒテ一ハ云ハク
ルモノモアルヘシ係レ何時ニテモ云フコトヲ
得ルトヤレハ十ノ内五ト云ヒ立ラサレコトト
ナルヘシ

裁判所ノ違ヒタルコトヲ訴訟ノ半ニ云フコトヲ得ル
ニ於テハ不都合多カルヘシ依テ之レハ始メ
ニ為ス方ト思フヤリ

書類ノ違ヒタルコトモ始メニ為ス方ト思フヤリ

司法省

問 請人ヲ訴訟半ニ立ツルコトヲ求ルコトヲ許ス
上ハ万一被人ニテ負訴訟ト思フエハ始メ
ニ立テサルトキ訴訟半ハニ至リ勝テト
ナルヘシト思フトキ原告人ト負トナルヘシ
ト思フヤリソノトキ請人ヲ立ツルコトヲ云フト
モ原告人ニテハ之レヲ立テス依テ裁判モソ
レ切リトナリタルニ付キ原告人逃走シタル
トキツレモテノ入費ハ如何スヘキヤ
答 之レハ被告人ノ損失ナリ何トナレハ如メ
ニ立ツルコトヲ許サニルトキハ格別ナレト始

メニ立ツルコトヲ許ストキハ便利ナリ尤モ今
ノ法律ニ於テモ前ノ場合ニ被告人ノ損トナ
ルコトハ同シコトナリ但シ羊ハニキフコトヲ
許スル便利ナリ到底被告人ノ好ミ次第ナリ
第四卷 訴訟ノ猶豫ヲ求ムル事
第百七十四條

遺物相續人寡婦離婚セラレシ婦夫ト財産ヲ
分チタル婦ハ遺物相續ノ始リシ日又ハ財産
ノ共通ヲ解キタル日ヨリ財産ノ目錄ヲ記
スル為メ三月ノ猶豫ト熟考ヲ為スタメ四月

司法省

猶豫ヲ得テ其時間訴訟ノ猶豫ヲ求ムルコ
トヲ得可シ若シ又三月前ニ目錄ヲ記シ終リタ
ル時ハ其日ヨリ四十日ノ猶豫ノ期限ヲ算
ス可シ

若シ三ヶ月内ニ目錄ヲ記スルコト能ハサルノ證
アル時ハ更ニ相当ノ猶豫ノ期限ヲ加ヘ且熟
考ヲ為ス為メ四十日ノ猶豫ヲ許ス可シ但シ
此事ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之レヲ裁判
ス可シ

遺物相續人ハ前ニ記シタル猶豫ノ期限ノ終リ

レ後ト虽モ通常ノ遺物相續人タル處置ヲ為
サスル時又ハ控訴ス可カラザル裁判言渡
ニ因リ通常ノ遺物相續人ナリト定メラレシ
クナキ時ハ尚ホ目錄ヲ記シテ且遺物ノ高ニ
至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特権アル遺物相
續人トナルノ権アリ

ジラトハアール

訴訟ノ期限ヲ延ルコト

此條ハ訴訟ノ猶豫ヲ願フコトヲ説キタルモノナ
リ

司法省

原語ヲ以テ見レハコレラアールノレキセフレヨレト
云フコトニテ即ク故障ノ部分ナリ

之レハ訴訟ノ原意ヲ論スルニアラス未タ期限
ノ表ラザルニヨリテソノ期限ニテ述ヘルコ
トヲ求ムルナリ

タトハハ金ヲ六ヶ月ヲ過キタラハ返スヘキノ契
約ナルニニヶ月ヲ過キテ債主ヨリ負債主
ヘ催促スルニ負債主ニテ未タ期限来ラスト
云フモノモハアラス右ノ次第ハ全クソノ願
ヒノ立タザルコトナリテ本主意ヲ破毀セラ

ルミナリ

此第四卷ノ猶豫ヲ求ムルハタトヘハ金ヲ借ツ
ルモノアルミソノ人死シタリソノ子ニテ
産目録ヲ作ルニ三ヶ月ヲ要シ又孫々相續
ヲ為スト為サレルトラ迄ハルニ四十日ヲ要
スソノ期限内ニ訴訟ヲ受ケルトキニハソ
ノ期限ノ経過スルニテ猶豫ヲ述フルナリ
財産共通ノ夫婦ニテ夫ト死シ離婚トナ
リタルトキ財産ヲ分ツカ又ハ其夫ノ相續人ト同
シク共通スルカノ時ハ三ヶ月ト四十日ノ期限ナリ

司法省

ソノ期限内ニ其夫ノ義務ニ付訴訟ヲ受ケ

タルキハ前ニ同シ

併因ニ於テハ夫死シタル時而已
離婚ト云フナリヤ古ハ夫婦在世

ニ離婚アルニ今ハ
之レナシ

財産目録ヲ作ル為メ三ヶ月ハ法律ニ定メタリト由ニ
時ニヨリニヶ月ニテ済ムコトアリソノトキハ
二ヶ月トヤス係レ熟考ノ四十日ハソノトキ
ナリ

尤モ速カニ取調ノ付キ又仮相續等モナク通常
ノ相續人トナリタルトキハ三ヶ月モ四十日モ
ナシ

係レソノ時ニ訴訟ヲ受ケタルトキハソノ訴訟ヲ
延ハス為メニ三月四月十日ヲ経過セストテ
猶豫ヲ述フルモノアリ

ソノ時ハ原告人ニテソノ実事ヲ見テ既ニ相続濟
ミタリトテ訴フルコトアリソノ時ハ裁判官
ノ見込ヲ以テ之レヲ決スルナリ

未タ相続ノ終ラサル内ニ人ニ家ヲ貸タリト
テ相続ノスミタルト為スコトヲ得ス之レハソ
ノ財産ヲ融通スル為メニ為シタルノミナリ
タトハハ畠ニアル変ヲ収メタリトテ相続ノ濟ミ

司法省

タリト為スコトヲ得ス之レハソノ收納ヲ取上
ケテ之レヲ支配スルノミナリ

然レモソノ腐敗スヘカラサル品ヲ賣リタルトキ
ハ之レヲ相続シタリト見做ス

中ニ就テ不動産ヲ賣リタルトキハ相続ノ濟ミタ
リト見做スナリ

死人ノ為メニ財産ヲ賣リテ至急ニ金ヲ持ハサ
ルヲ得ルコトアリ

ソノ時ハ相当ノ日限掲示ヲ為シテ賣リタルトキ
ハ相続トハ見做サス之レハ財産夫ケノ相

続ト見做スナリ

此條ノ旁三項ハ民法遺物相続ノ編ニ入ルヘシ訴
訟法ニ入ルヘキモノニアラス

此條書方ヨロシカラス

如シ民法ニ定メタル目錄ヲ依ル期限ト熟考ノ
為メノ四十日ノ期限ノ前ニ訴ヲ受タルト

キハ猶豫ヲ求ムルコトヲ得ルト昏ケハヨロシ
遺物相続人云々ハ民法ニ委シ此取ニ昏クニ及
ハス

併ニテハ父ノ負債ヲ子ニテ尽ク拂ハストモヨロシ

司法省

父ノ財産丈ケラ相続スルモノアリ又ハ通常
ノ相続人アリ又ハ一向ニ相続ヲ断リシモ
ノアリ

万一父ノ財産ヲ賣リテソノ金ヲ我カ所有トナシタ
ルトキハ之レヲ通常ノ相続人ト見做ス

財産共通ヲ為シタル婦ニテ死シタルトキハ三
ヶ月ノ猶豫ヲ與ヘス何トナレハ夫ハ婦ノ始
末ヲ付ケルモノナレハナリ

呼出状ヲ二ヶ月四十日ヲ過キサルトキニ送リタル
トキハ猶豫ヲ述ヘタルノミニテ其訴訟

ヲ中止シツノ期限ヲ過キタルトキハ再ヒ呼
出状ヲ送ラステ裁判所へ出テケルヘカラス
三ヶ月内ニ目錄ヲ作ルコト能ハサルキハ再ヒ相当
ノ猶豫ヲ述フルコトアリ

熟考ノ四十日ハ延ハカス何トナレハ四十日ヲ過ク
レハ思慮定ニルモノトスナリ

又カセハ、四ツ字解シ
推シ

万一此期限内ニ物ヲ又カセハ即チ通常ノ相続人
ト見做スナリ

前條々ニ述タル三ツノ故障ノ外ニ此猶豫ヲ述フ
ルコトヲ合セテ四ツトナル

司法省

此四ツアルトキハ前ノ三ツノ故障ヲ先キニ求メ
コトノ後ニ猶豫ノコトヲ求ムヘシ

如シ誤テ猶豫ノコトヲ先ニ云入ハ三ツノ故障ハ消
滅スルナリ

之レハ代書師ノ注意スヘキコトナ

此猶豫ヲ述フル各付ハ裁判所當テナレトモ代
書師ヨリ代書師へ送ル万一之レニ付一方ヨ
リ故障ヲ云フトキハ裁判所へ出ス如シ一方
ニテ承諾スレハ裁判所へ出スニ及ハス

万一猶豫ヲ述ヘタリトモ一方ニテ物ヲ又カレタ

ルヲ見出シタルトキハ其効ナシ

三ツノ故障アルトキ猶豫ノヲ述ヘテ一方ニテ承諾シタル上ツノ期限ニ至リテ三ツノヲ述ヘタルニ付一方ノ代書師ニテソノ故障ハ立タミスト云フトキ一方ニテ云ヒ張ルトキハ裁判所へ出テ、裁判官ノ決ヲ取ルソノトキ裁判官ハソノ故障ハ立タスト言渡スヤレヘシ

猶豫ノ故障ヲ先キ云ヒソノ後ニ三ツノ故障ヲ順次ニ述ヘタルトキ原告人代書師ニテ承

司法省

諾ヲテレタル上ハ即チ故障トナレ

之レハ私益ニ係ルヲナルユヘ裁判官ヨリ何トモ言ハス原告人ヨリ言立テタルトキハ之レヲ裁判スルノミ

此次ノ故障ハガラシキヲテテ説カントス之レハ随分六ツカシキヲナリ

訴訟法會議筆記

一月十五日
二十七号

司法省

今日ハ第二ノ猶豫ノ期限ヲ求ムル所口ノエキ
セフレヨシヲ説カントス即チ^{保証}カランノ

ナリ

此トニ付テハ呼出状並勸解ノトニ付テ説キ
タリ

義務ノ事件ニ付キ又ハ物件取戻シノトニ付テ
甲ヨリ乙ニ對シ訴訟ヲナシタルトキ甲乙ナル
人ヲ呼シテ受合ハシメ或ハ防カシムルコトアル
仍テ之レヲ呼出スコトヲ得ルナリ要償ノ契約

司法省

ヲ為シ或ハ物ト物トヲ取替ルトキ又ハ物
件譲受ヲ為ストキケ様々ノコトアルニ
付キ保証シテクレヨト云ヒテ兩ヲ呼フコ
ナリ

保証ノコトニ付キニ夕通りアリ

第一ニハ被告人ト共ニソノ訴訟ヲ防クコト
アリ

第二ニハ被告人ニ代リテ訴訟ヲ防クコトアリ
以上ニツハ保証人ノ職掌ナリ追々後ニ本條
アリ仍テ茲ニソノ細目ハ説カス

此第百七十五条ニ於テ保証人ヲ呼出スノ期限ヲ説カントス

被告人にテ裁判所へソノ都合ニヨリテ保証人ヲ呼ビ度旨ヲ述ヘタルトキハソノ猶豫ノ期限ハ通常八日ナリトスソノ八日ヲ原則トナシテソノ餘ノ猶豫ヲ與フルコトアリ
時ニヨリ保証人数人アルコトアリ又保証人ノ保証人ヲ呼フコトアリ
ソノ猶豫ハソノ保証人ノアル丈ケノ期限ヲ與ハケル可カラズ

司法省

ソノ残ラズノ保証人ノソロヒタル上裁判所ニイタリ我カ旨意ヲ述フルハ一般ノ規則ナリ
若シ被告人ニテ保証人ヲ呼ハサレハ訴訟ノ出来サレトキハ被告人ノ代書師ヨリ原告人ノ代書師へ報告シテソノ訴訟ヲ猶豫セシム
若シ原告人ノ代書師ニテ猶豫ノ丁ニ付テ故障ヲ云フ中ハ裁判所へ訴ヘテ裁判ヲ乞フ
実地ニ於テハ原告人ニテ故障ハ云ハサレ
モノナリ

此條中ニ猶豫ノ一ヲ云ハス第四款ノ標目ニ
猶豫ヲ求ムルトヲアルヲ以テ知ルヘシ
保シ此文章ノ昏キ方ヨロシカラス

第百八十六條ト第百八十七條ニ猶豫ヲ求ム
ルノ文アリ

保証人ヲ呼出ケルヲ得サルトキハ保証人
ヲ呼出スヘキ猶豫ヲ求ムルノ文ヲ入レル方
ヨロシ

法律ノアレキニアラス文章ノアレキナリ

今第百七十五條ニ説キタル通り一ツノ事件

司法省

ニ付キ數人ノ保証人アルトキハ其最モ遠キ
保証人ヲ呼出スヘキ期日ニ惣テ之レヲ呼出
スハタトヘハ會社等ノトキヲ云フ

又保証人ノ保証人ト段々ツクモノハ一ツ
ノモノヲ逐次ニ賣リタルトキノ一ツナリ
之レハ第百七十六條ニアリ

ソノ例ヲ説カントス

タトヘハ一ツノ不動産又ハ物件ヲ買シル
ニ二人ノ相続人ヨリ買ヒ又ハ夫婦ヨリ買ヒ
タリ佛ニテハ夫ノ財産ヲ婦ニテモ所有ノ

権アリト見做スナリ

タトヘハ一ツノ物ヲ甲買ヒタリ一人アリテ
ソノ故障ヲ述ヘタルトキハソノ賣主ナル夫
婦又ハ相續人ヲ呼ハカケルハカラヌ一人ハ東
京ニアリ一人ハ坂ニアルトキハ大坂ニア
ルモノヲ呼出スヘキ期限ヲ以テ二人トモニ
呼出スナリ

通常ハ八日ナレドモソレヨリ遠キ所ニ住所
アルトキハ一日程コトニ三ミリヤメートル
ノ猶豫ト定メタリ

司法省

コレハ前時ノ法ナリ一千八百六十二年ヨリ
以後ハ五ミリヤメートルト定メタルナリ
タトヘハ一月一日ニ被告人呼出状ヲ受ケ
タルトキハ九日ニテノ内ニ代唇師ヲ立テソノ
日ニ故障ヲ述ヘ保証人ヲ呼ヒ出ス手数ヲ
為ス萬一遠キ所ニ居レハ五ミリヤメートル
毎ニ一日ツレノ猶豫ヲ増スナリ
ホアソナリト案スルニタトヘハ被告人一月
一日ニ呼出状ヲ受ケレハ里數遠クシテ三十
日ニ出テ来ルヲアリトモ保証人ヲ呼出ス

期限ハ即チ八日内ニ始テルナリ

タトヘハ東京ノ裁判所ヘ大坂ニ居ル被告
人ヲ呼ビ出スニ三十日間ニ出テ来ルトキハ
被告人大坂ニアル保証人ヲ呼ビ出スニ被告
人ノ呼出ヲ受ケタル日ヨリ三日ヲ過キテ
保証人ヘ呼出状ヲ送達シタルトキハ保証人ハ
被告ノヨリ三日後レテ裁判所ヘ出ツルコトナ
ル仍テソレズケノ猶豫ヲ乞ハサルヘカラスレ
原告被告トモ東京人ニテ保証人ハ大坂ナリ
トキハ被告ノ一月一日ニ呼出状ヲ受ケル

司法省

ハ十日ニハ裁判所ヘ出テサルヲ得サルヘケ
レハ大坂ノ保証人ヲ呼出ス為メニ二十日ノ
猶豫トナリテ三十日ニ至タル訴訟ノ始ニ
コトナラルナリ

被告又大坂ニアル保証人東京ニアルトキハ
保証人ハ八日内ニ裁判所ヘ出ツルヲ得ルト
雖モ被告人ノ来ラサル間ニ保証人ノミ裁判
所ヘ出ルノ理ナレソノトキハ被告人ノ来
ル三十日ニテ待タサレヲ得ス故ニ東京ニ
アル保証人ハ廿日ノ日ニ呼ビ出シテ掛ルモ苦

シカラスト思フナリ

如シ此條ニ付キ伺ノ出テタラハ上ノ如ク審明シテ指令ヲ為スモ告シカラスト思フナリ
万一保証人大坂ニアリ被告人東京ニアルト
キハ二十日ノ猶豫トナルナリ

タトハハ被人大坂ニアリ保証人箱館ニアリ
ソノトキハ被告人ヨリ保証人ヲ呼ヒ出ス
之ケ至タル訴訟ノ日數ヲ猶豫セサレハカ
ラス

仍テ保証人カ被告人ヨリ遠キ所口ニ居レハ

司法省

ソノ訴訟ハ後ルコトナリ

之レハ保証人数人アルトキラ云フ之レモ被
告人ノ呼出シテ受ケタル日ヨリ八日内ニ
保証人ヲ呼出状送ルコト前条ノ通りナリ
保証人ノ保証人ヲ呼ヒ出ストキハ至タ
ル訴訟ハ段々延引スルナリ

尤モ東西南北ノ端ニ居レハ餘程ノ延
引トナル

被告人ニテ三十日メニ出ツヘキモノヲ三十
日メニ保証人ヲ呼ヒ出スコト為スニ於テハ

ソノ延引甚タレ仍テ八日八日ト為シタル
モノナリ

司法省

訴訟法會議筆記

八年一月廿日

司法省

訴訟法會議筆記 八年一月二十日

前會第百七十五條第百七十六條ニ於テ若シ
被告人ニテ保証人ヲ呼ビ出サシムルヲ得サル
トキハ八日內ニ呼出狀ヲ懸ケ若シ遠方ナ
ルトキハ五ヨリ一ヤメトシ毎ニ一日ヲ増ス
トテ說キタリ
被告人如シ遠方ニ居レハ保証人ヲ呼出サ
ル期限ト同レク延引シ隨ツテ保証人ノ出
ツルモ延引スルナリ
之レカ為メ猶豫ヲ與フルトス

司法省

過日始メハ呼出狀ヲ掛ケテ同日ニ出ツル
トテ言ヒ終リテハ聊カ一方ノモノ、延引ス
ルニ付猶豫ヲ与フルトテ說キタリ
然ルヲ猶豫ヲ與ヘザルモ可ナル場合ナリ
第百七十九條 若シ被告人ノ其保証人ヲ呼
出スヘキ期日被告人ノ出席スヘキ期日ト同
時ナラサル時被告人其出席スヘキ期日ニ至ラ
ザル前ニ其保証人ニ呼出狀ヲ送りタル旨ヲ已
レノ代書師ヨリ原告人ノ代書師ニ各面ヲ以テ
報告セシメタルニ於テハ被告人抗傳者タル言渡